

FORTUNA&ASOCIADOS  
農畜産業コンサルティングサービス社

ドミニカ共和国胡椒開発計画最終評価調査団  
サポート調査報告書  
(胡椒栽培農家調査)

ドミニカ共和国サントドミンゴ市  
1996年12月

## 目 次

はじめに .....	123
I. 調査の目的と方法 .....	124
1.1 評価の目的 .....	124
1.2 調査方法 .....	124
II. 調査地域の概要 .....	126
2.1 調査地域の概要 .....	126
2.2 経済インフラストラクチャー .....	126
2.3 社会インフラストラクチャー .....	127
2.4 村の住民組織 .....	127
2.5 住民が認識する地域の問題 .....	127
III. 調査結果の分析 .....	129
3.1 シエラ・プリエタ（ヤマサ郡） .....	129
3.1.1 家族構成 .....	129
3.1.2 宗教 .....	130
3.1.3 土地の所有 .....	131
3.1.4 農作業暦 .....	132
3.1.5 栽培する作物の種類と場所に関する決定 .....	133
3.1.6 家計 .....	133
3.1.7 収入に関する女性の権限 .....	134
3.1.8 胡椒栽培 .....	134
3.1.9 家事及び農業以外の作業の責任分担 .....	135
3.1.10 将来への抱負 .....	136
3.1.11 精神面での満足度 .....	137
3.2 トヒン（コツイ郡） .....	138
3.2.1 家族構成 .....	138
3.2.2 宗教 .....	138
3.2.3 土地の所有 .....	139
3.2.4 農作業暦 .....	139
3.2.5 栽培する作物の種類と場所に関する決定 .....	140

3.2.6	家計	141
3.2.7	収入に関する女性の権限	142
3.2.8	胡椒栽培	142
3.2.9	家事及び農業以外の作業の責任分担	143
3.2.10	将来への抱負	144
3.2.11	精神面での満足度	144
3.3	ラ・マハグア（サマナ県サンチェス郡）	145
3.3.1	家族構成	145
3.3.2	宗教	146
3.3.3	土地の所有	146
3.3.4	農作業暦	147
3.3.5	栽培する作物の種類と場所に関する決定	147
3.3.6	家計	148
3.3.7	収入に関する女性の権限	149
3.3.8	胡椒栽培	149
3.3.9	家事及び農業以外の作業の責任分担	150
3.3.10	将来への抱負	151
3.3.11	精神面での満足度	151
IV.	3地域のアンケート結果のまとめ	152
V.	結論及び提言	157
5.1	結論	157
5.2	提言	158

## はじめに

人々がその能力、資源、機会を最大限に活用できるような投資がいわゆる生産性に富んだ投資であり、また、女性が男性と対等な権利を有し、社会活動に全面的に参加することは人類の発展にとって大切であることを十分に踏まえた上で、安定した社会経済成長が遂げることが、1995年から2005年までの10年間の世界の貧困撲滅の基本理論及び戦略である。

国際機関や先進国政府及び貧困国政府全てがこの世界レベルでの約束と真剣に取り組んでいる。

日本とドミニカ共和国は胡椒開発計画やその他の国際協力事業を通じて、農業生産者の収入を増加させ、家族単位での生活や福祉の向上を目的とした協力活動を行なっている。

胡椒開発計画(第二フェーズ)は1992年に開始し、1997年7月に終了する。活動サイトはシェラ・プリエタ(ヤマサ)、トヒン(コツイ)、ラ・マハグア(サマナ県サンチェス)で、国際協力事業団(JICA)、農務省(SEA)、農地庁(IAD)の間で交わされた協定に基づき、実施されている。

本報告書は1996年度に行なわれた同プロジェクトの最終評価調査の一環として行なわれた技術評価の一部を含むものである。

「FORTUNA & ASOCIADOS」社は日本の最終評価調査団団員と事前に検討した調査方法をもって「農村でのフィールド調査による情報収集」活動を行なった。本報告書は5章からなり、その序章では安定した成長及び世界の貧困撲滅のための国際協力についてふれる。

第1章では調査方法について説明する。第2章では調査対象地域であるシェラ・プリエタ、トヒン、ラ・マハグアの一般概要について説明する。第3章では前述の調査地域の農民に対して行なったアンケート調査結果の分析と解釈を行なう。

調査結果は11個の表とそれぞれの調査項目の分析結果で構成されている。調査項目は家族構成、宗教、土地の所有状況、農作業暦、作物の種類と栽培している土地、決定権、家計、胡椒栽培、家事分担、女性の自由度、将来の抱負、精神的な満足度、幸福度である。

第4章は男女共に30人ずつ行なった今回のインタビュー調査の結果の総合分析であり、調査項目によって分析がなされ、15個の表が作成された。第5章は総論(13小節)と提言(6小節)で構成されている。

また、付属資料として、1) グラフ、2) アンケートの集計結果の表、3) 男女別個人アンケート、4) 調査対象地域の一般概要作成のための指針、が添付されている。

今回の調査活動は調査員の高い能力と同プロジェクトの関係機関の技術員及び農民の協力をもって実施された。

## 1. 調査の目的と方法

### 1. 1. 評価の目的

胡椒開発計画に係る議事録（R/D）及び詳細実施計画（D I P）によると、最終評価の目的は下記の通りである。

- (1) R/D及び詳細実施計画（D I P）に基づき、プロジェクト開始から現時点までの協力活動実績を調査し、その達成度を評価する。
- (2) 協力終了後のとるべき対応策について協議し、その結果を両国政府関係機関に報告する。
- (3) 今後の技術協力を適切かつ円滑に実施するため、評価結果を協力計画の策定やプロジェクトの実施にフィードバックさせる。

### 1. 2. 調査方法

調査方法に関しては、まず、胡椒開発計画の技術員、日本側評価調査団団員及び同団員をサポートする当社の調査員の間で打ち合わせが行なわれ、自由な意見交換や調査内容の確認などがなされた。調査項目や調査スケジュール、調査対象、調査用紙の摘要方法などが確認された。

最終評価調査団の本団が来訪する前に、シマダ・トモコ女史（団員）と数回打ち合わせのミーティングが行なわれた。

### 農家の選定

1. 今回調査対象農家の選定は各調査地域のプロジェクト担当者が行なった。

場 所	人数	男	女
a) シェラ・プリエタ（ヤマサ）	10	10	
b) トヒン（コツイ）	10	10	
c) ラ・マハグア（サマナ県サンチェス）	10	10	

農家の選定にあたっては栽培年数を考慮し、新しい農家と古い農家を混合して調査した。また、調査される農民の年齢や同入植地内での居住場所がかたよらないように配慮がなされた。

2. 各調査地域を管轄するプロジェクト担当者にも、その地域の一般的な情報入手のために指針にあげる項目に関し情報収集への協力を依頼した。

### 調査材料の定義

1. クエスチョネア：調査員が作成したクエスチョネアで、選択肢方式と自由回答方式の両方を取り入れ、家族構成、就学率、宗教、土地の所有、農作業暦、農畜産業生産、家計、夫婦間の決定権、幸福度、将来の抱負などについての回答を求めた。

当コンサル会社の調査員はクエスチョネアの結果を客観的な立場で効果的に分析した。クエスチョネアによる聞き取り調査は1ケースにつき、30分から50分かかった。クエスチョネアは5枚つづりで、43の質問から構成されている。

### 2. 調査地域に関する一般情報収集のための指針

この指針は一般情報収集のための調査項目が列記されているもので、各地での農家への聞き取り調査開始時に展示農場場長へ渡し、時間に余裕を持って回答を依頼し、調査終了時に受け取った。

### クエスチョネアによる調査手法

男性の調査員は夫、女性の調査員は妻と、手分けしてそれぞれ個人的な聞き取り調査を行なった。それぞれの農家へ訪問し、静かな雰囲気のできるだけ時間をとらないよう考えて聞き取り調査を行なった。また、家の様子を見たり、質問者が上手に有効な回答を引き出す能力を発揮したことが、後のレコメンデーションの提起に大いに役立った。

### クエスチョネアの分析と評価

- コンサル調査員と農民全員の合同ミーティング及び男女別々のミーティング。
- 調査員とプロジェクト担当者とのミーティング（上記指針の説明）

### 情報収集

- 聞き取り調査の対象として選定された農家への訪問。
- 夫婦別々に聞き取り調査（男性の調査員が夫に質問し、女性の調査員が妻に質問した。）

### 聞き取り調査の集計と分析（項目別作表、集計、コード分類）

## 11. 調査地域の概要

### 2. 1. 調査地域の概要

シェラ・プリエタはヤマサ郡に属し、ヤマサ郡の人口は43,244人で、そのうち6,377人は都市部に、36,867人は農村部に居住している。シェラ・プリエタ地区は1,667戸、約1万人を有する。これら農家はペドレガルのラ・クアバからヤマサに連絡する道路に沿って徐々に入植していった。

トヒンはコツイ郡に属し、コツイ郡の人口は85,066人で、そのうち41,682人は都市部に、43,384人は農村部に居住している。

ラ・マハグアはサンチェス郡に属し、サンチェス郡の人口は22,782人で、そのうち9,537人は都市部に13,245人は農村部に居住している。ラ・マハグアは1,280戸、約6,000人を有する。(注1:1993年人口・住宅センサス、国家統計局)。

以上3地域の住人の大部分は男女共に農業従事者であるが、若い世代の中には教師、エンジニア、看護婦、農業技師、弁護士などの専門職を持つ者もいる。

調査員が得た情報によると、シェラ・プリエタの胡椒プロジェクトサイトが位置しているのは正式には「アト・ビエホ地区 (PARAJE HATO VIEJO)」で、1970年から同地での土地獲得の戦いが始まったという。その当時は600家族が住んでいたが、そのうち81家族がこの戦いを指揮し、最終的に1975年8月12日、正式な入植者として土地の配分を受けた。

トヒンやラ・マハグアも同様に、土地の配分を求めた農民の運動が実を結んで入植地となったものである。

### 2. 2. 経済インフラストラクチャー

各調査地域と一番近い都市との距離は11から18kmであった。いずれも整備された道路はなく、コンディションがかなり悪い小道が通っているだけで、車では通れないような場所もある。

シェラ・プリエタとトヒンに関しては道路は殆ど山村連絡道路である。3地域とも国の交通機関はないが、民間のオートバイタクシーは道路の状態がかなりひどいにもかかわらず、かなり普及している。

ラ・マハグアだけが電力公団の電気が通っている。シェラ・プリエタでは農民が電線を自

分たちでひけば、自由に接続できる民間の発電機があるのだが、大半はそれもできないのが現状である。

上水道の供給は不完全で、シェラ・プリエタでは小川を堰でとめて貯水し、重力によって大きなタンクに送水するシステムになっている。しかし、このタンクはフタがなく、たまった水はいっさいの処理もされず直接利用される。トヒンは管式井戸があり、ラ・マハグアでは風車（現在は動いていない）と井戸が掘られている。3地域いずれも胡椒プロジェクトの展示農場にある無線ラジオが唯一の連絡手段である。

## 2. 3. 社会インフラストラクチャー

シェラ・プリエタは初等、中等教育を行なう学校があり、高等教育については教室がない。トヒンは小学校のみがあり、ラ・マハグアは初等、中等、高等いずれも揃っている。いずれの地域も住民の共同施設や警察の詰め所がない。トヒンとラ・マハグアは地区内に診療所など国の医療施設がない。シェラ・プリエタには農村病院があるにもかかわらず、現在医師はおらず、救急治療のための看護婦が配置されているにすぎない。

## 2. 4. 村の住民組織

村の住民組織としては隣組（JUNTA DE VECINOS）、農民組合、入植者組合、婦人クラブ、青少年クラブ、各種の宗教団体、相互援助組合などがある。

## 2. 5. 住民が認識する地域の問題

### 2. 5. 1. ヤマサ郡シェラ・プリエタ

#### 男性が意識している問題（各自の回答順）

- 
1. 公立高校、医者、電気、水道。
  2. 水道、電気、山村道路。
  3. 電気、公立高校、山村道路。
  4. 電気、道路、水道。
  5. 山村道路、電気。
  6. 山村道路、電気、病院での薬の不足、農業技師の不足。
  7. 山村道路、電気。
  8. 水道、山村道路、電気。
  9. 電気、山村道路、交通手段
  10. 水道、電気、山村道路。
-



女性が意識している問題（各自の回答順）

---

1. 電気、水道、道路。
  2. 電気、水道、教育、娯楽、食料。
  3. 電気、道路。
  4. 住民組織がない。
  5. 道路、電気、水道、上水道のタンク（ふたをつけるべき）
  6. 道路、電気、上水道のタンクのふた、住民クラブ、小学校から中学校課程までの学校。
  7. 電気、道路、医者。
  8. 電気、農業への支援の不足。
  9. 道路、水道（不十分）、バスケットコートがない。
  10. 電気、農業生産が低い、雇用源がない。
- 

2. 5. 2. コツイ郡トヒン

男性が意識している問題（各自の回答順）

---

1. 山村道路、電気、学校の状態が悪い。
  2. 山村道路、学校、電気。
  3. 電気、山村道路、水道、農民への貸し付け、農業への支援の不足。
  4. 山村道路、学校、雇用、電気、農業貸付。
  5. 山村道路。
  6. 山村道路、学校、診療所、技術指導。
  7. 水道、山村道路、診療所。
  8. 山村道路、学校、電気、農業貸付。
  9. 山村道路、電気、学校、病院。
  10. 学校、雇用、住宅、山村道路、青少年クラブ。
- 

女性が意識する問題（各自の回答順）

---

1. 問題はない。
  2. 山村道路、水道、電気、学校。
  3. 医療、学校の建物。
  4. 学校の建物、道路。
  5. 道路、病院、青少年クラブ、学校。
  6. 学校の建物、道路、山村道路。
  7. 道路、学校の建物。
  8. 学校の建物、農業機材、山村道路、診療所。
  9. 病院、学校の建物。
  10. 教育（学校の建物）
-

2. 5. 3. サマナ県サンチェス郡ラ・マハグア

男性が意識している問題 (各自の回答順)

1. 山村道路、農業貸付、電気供給の拡大。
2. 山村道路、泥棒、警察の詰め所がない、生産物を販売先が少ない。
3. 水道、さといもの販売市場不足。
4. 病院、便所。
5. 水道、用水路。
6. 水道、雇用、橋の整備。
7. さといもの販売市場不足。
8. さといもの販売市場不足、雇用。
9. 未回答。
10. さといもの販売市場不足。

女性が意識している問題 (各自の回答順)

1. 水道、高校。
2. 病院、高校、上水道。
3. 経済問題。
4. 便所の汚水による環境汚染、上水道、病院。
5. 水道、山村道路、学校。
6. 水道、高校の事務用品、備品など。
7. わからない。
8. 上水道、配電（電線）、洪水、さといもの販売市場。
9. あらゆるものが足りない。
10. 上水道、山村道路、高校。

III. 調査結果の分析

3. 1. シェラ・プリエタ (ヤマサ郡)

3. 1. 1. 家族構成

家族構成については年齢、教育レベル、家族の職業と共に別表に表わす。家族構成は下表の通り。

夫婦番号	現在同居している家族構成												
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
1													X
2				X									

夫婦 番号	現在同居している家族構成												
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
3			X										
4											X		
5					X								
6				X									
7				X									
8		X											
9						X							
10				X									

今回調査した夫婦の年齢の範囲は27才から70才で、大半が夫が妻より3才から4才年上であった。従って、夫と妻が同年代に属しているため、関心のある事項や価値感がほぼ一致しており、年齢差が大きい夫婦よりは話し合いによって物事が決定しやすい状況にあるようである。

調査した夫婦のうち、5組は夫妻両方とも読み書きができ、1組は両方とも文盲であった。また、2組は妻は読み書きができるが、夫ができないケースであった。7組は正式に婚姻しており、残り3組は内縁の夫婦であった。

10組とも同地で生まれ育ち、10組あわせて扶養家族数は40人で、男女ともに20人ずつであった。

5組の夫婦はあわせて9人の孫の面倒をみており、その構成は女兒2人、男児7人であった。夫婦の扶養家族のうち、23人は初等課程に就学中で、5人が中等課程に就学中であった。この5組は親と子供、孫が同居する3世代家族であった。夫の仕事は農業が主で、妻は家事と育児（子供や孫の世話）が主であった。

### 3. 1. 2. 宗教

夫婦番号	カトリック教	他の宗教	無宗教
1	夫と妻		
2	夫と妻		
3		夫と妻	
4	妻		夫
5	夫	妻	
6	夫と妻		
7	夫と妻		

夫婦番号	カトリック教	他の宗教	無宗教
8	夫と妻		
9	妻	夫	
10			夫と妻

夫と妻の宗教が異なるケースがあるが、夫婦間のトラブルの原因にはなっていない。

### 3. 1. 3. 土地の所有

番号	夫の回答			妻の回答		
	土地の所有	面積 (タレア)	所有者	土地の所有	面積 (タレア)	所有者
1	農地改革*	60	夫・妻	農地改革	不明	妻
	遺産相続	20	妻	遺産相続	20	
2	農地改革	60	夫・妻	農地改革	不明	夫・妻
	自分の土地	10	夫	遺産相続	不明	夫
				借地 (賃貸)	不明	夫
3	農地改革	78	夫・妻	農地改革	60	妻
	自分の土地	170	夫	農地改革	60	夫
4	農地改革	60	夫・妻	農地改革	60	夫・妻
				自分の土地	3	夫
5	農地改革	60	夫・妻	農地改革	不明	夫・妻
	遺産相続	300	夫			
6	農地改革	60	夫・妻	農地改革	不明	夫・妻
7	農地改革	60	妻	遺産相続	6	夫
				借地	10	
8	農地改革	50	妻	農地改革	不明	夫・妻
	農地改革	50	夫	借地	不明	夫
9	遺産相続	40	夫	自分の土地	不明	夫
				借地		
10	農地改革	39	夫・妻	農地改革	不明	夫・妻

調査した農家は、遺産相続や農地改革で配分された土地や自分で購入した土地などをあわせて、全部で1, 100タレアの土地を所有している。農地改革で配分された土地は夫、妻共に家族の所有する土地だと認識しているが、遺産相続や購入した土地については夫婦いずれかの土地であるとみなされている。

生産物の取り扱いについては、キャッサバ、さといも、ブラタノ、グアンドゥール等の作物は大部分が販売よりも自給にあてられる。果樹やその他の永年作物 (ココやし、コーヒー) は販売にあてられる。

妻は家族が農地改革で配当された土地については、自分も所有者であるといっているが、その面積について明確に知らない。夫が所有する他の土地については「夫の土地」とみなし

ている。男女合わせて所有する土地の面積は10タレアから300タレアで、平均60タレアであった。

### 3. 1. 4. 農作業暦

番号	男			女		
	作物	植付時期	収穫時期	作物	植付時期	収穫時期
1	米、とうもろこし、グアンドゥール、キャッサバ、グラナディージョ (果樹)	8月	12月	キャッサバ、さつまいも	6月 7月	
2	キャッサバ、グアンドゥール	7月	97年2月	米、とうもろこし、グアンドゥール、オレンジ、グレープフルーツ、ココやし	6月	一年中
3	キャッサバ、かぼちゃ	6月		大豆、プラタノ、さといも、キャッサバ、グレープフルーツ、オレンジ	不明	一年中
4	かぼちゃ とうもろこし	6月 3月	9月 10月	かぼちゃ 胡椒	10月	現在収穫中
5	とうもろこし、かぼちゃ、 キャッサバ	9月 8月	12月	とうもろこし、かぼちゃ、グアンドゥール、キャッサバ	3月	
6	キャッサバ プラタノ グアンドゥール	10月 2月	5月 — 11月	キャッサバ、 プラタノ	10月	結実中
7	キャッサバ、 グアンドゥール	2月 1月	10月 —	キャッサバ、グアンドゥール、ココやし、グレープフルーツ、オレンジ	3月	一年中
8	米、かぼちゃ、 キャッサバ とうもろこし グアンドゥール	6月 6月 6月 6月	11月 97年3月 12月 97年2月	インゲン豆 キャッサバ 米、グアンドゥール、かぼちゃ	11月 10月 6月	一年中
9	さといも キャッサバ かぼちゃ	— 4月 9月	8月 12月 11月	オクラ かぼちゃ やまいも	不明	
10	とうもろこし かぼちゃ、キャッサバ	4月 4月	7月 97年3月	キャッサバ カカオ 胡椒、グレープフルーツ、オレンジ、ココやし	6月 9月	一年中

調査対象農家は全て小作物とオレンジ、米、胡椒を栽培する農家である。女性のうち、2人だけが作物の栽培サイクルを示すことができ、男性も植付時期や収穫時期を正確に把握しておらず、農作業暦を余り認識していないことがうかがえられた。

### 3. 1. 5. 栽培する作物の種類及び場所に関する決定

農家番号	回答者	
	夫	妻
1	夫が決定する	夫が決定する
2	夫が決定する	夫が決定する
3	夫が決定する	夫婦で話し合う
4	夫婦で話し合う	夫が決定する
5	夫が決定する	夫が決定する
6	夫婦で話し合う	夫が決定する
7	夫が決定する	夫が決定する
8	夫婦で話し合う	夫婦で話し合う
9	夫が決定する	夫が決定する
10	夫が決定する	夫婦で話し合う

男性10人のうち、7人は自分で作物の種類や作付け場所を決定し、残り3人は夫婦で話し合って決定すると回答した。女性10人中、7人は夫が決定すると回答し、3人は夫が決定するのを助けると答えた。4組の夫婦において、夫と妻の回答が異なっていたが、これはお互いの決定のプロセスへの参加度についての意識の違いを示している。

### 3. 1. 6. 家 計

#### 家庭の収入及び支出

番号 回答者	生産物の販売		生産物の販売場所		収入の用途		収入の用途の決定	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
1	夫	夫	サントドミンゴ	サントドミンゴ	生活費	生活費	夫・妻	夫・妻
2	夫	夫・子供	サントドミンゴ	ヤマサ	生活費	生活費	夫・妻	夫
3	夫・妻	夫・子供	サントドミンゴ	生産地内	食費	農業	夫・妻	夫
4	夫	夫	サントドミンゴ	サントドミンゴ	生活費	農業・生活費	夫・妻	夫
5	夫	夫	生産地内	生産地内及びサントドミンゴ	食費	生活費	夫	夫
6	夫	夫	胡椒生産者組合	生産地内及びサントドミンゴ	食費	食費	夫・妻	夫
7	夫	夫	サントドミンゴ	サントドミンゴ	住居改善	生活費	夫	夫

番号	生産物の販売		生産物の販売場所		収入の用途		収入の用途の決定	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
8	妻	妻	サントドミンゴ	サントドミンゴ	食費	生活費	夫・妻	夫・妻
9	夫	夫	生産地内	生産地内	生活費	生活費	夫・妻	
10	夫	夫	生産地内	生産地内	生活費	食費	夫・妻	夫・妻

注) 生産物が少ない場合は妻が販売し、特に小作物や家畜の販売は妻が行なうことが多い。

男女とも大半が夫が生産物の販売を担当すると回答し、2組が夫と子供が協力して販売し、1組だけ女性（妻）が販売すると回答した。販売先はサントドミンゴが最も多く（7組）、ついで同じ農村内（生産地内）であった。農産物販売による収入は生活費にあて、その用途は夫婦で相談して決められるが、女性のうち7人は夫が決めると答えた。

### 3. 1. 7. 収入に関する女性の権限

女性が収入を自由に使う事ができるかどうか。

農家番号	夫の回答	妻の回答
1	未回答	できる
2	できる	できる
3	できる	できる
4	できる	できる
5	できる	できる
6	できる	他に収入がある
7	できない	できない
8	できる	できる
9	できる	他に収入がない
10	できる	できる

### 3. 1. 8. 胡椒栽培

番号	胡椒の樹齢（年数）		栽培本数		胡椒による収入の用途		将来の収入の用途	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
1	3	3	120	100	収穫なし	家計	住居改修、車	収入の増加と車の購入
2	3	3	104	104	生活費	生活費	食生活の改善、住居改修の完了	生活費の増加、投資。
3	2	2	100	100	生活費	未収穫	胡椒組合にて貯蓄	わからない

番号	胡椒の樹齢 (年数)		栽培本数		胡椒による収入の用途		将来の収入の用途	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
4	2	2	100	100	生活費	未収穫	グレープフルーツの植付本数を増やす	わからない
5	2	2	100	100	未収穫	未収穫	牛を買う	夫の決断に従う
6	6	6	170	170	住居改善	住居改善	住居改修、土地の購入、子供の教育	住居改善と子供の教育
7	1	1	100	100	未収穫	未収穫	住居改修と貯蓄	生活費
8	6ヶ月	4ヶ月	100	不明	未収穫	未収穫	住居改修、胡椒本数を増やす、家畜の購入	実際の状況をみながら、最善の方策をとる。
9	2	2	100	100	生活費	未収穫	住居建設	夫の決断に従う
10	2	1	100	100	食費	未収穫	車の購入、ろうそく工場の設置	有望な商売を始める。

胡椒の年数は5戸が2年、2戸が3年、1戸が6年、それ以外は2年未満である。妻も1人を除いて、栽培年数や本数を答えることができた。収入の主な用途は生活費と住居費であった。

4戸はまだ収穫していないため、該当しない質問があった。妻は収穫していないといいながら、夫は胡椒の収入は生活費にあてたと答える矛盾したケースが4組あった。将来の予想される収入の用途は、商売への投資、貯蓄、住宅の建設や改修(5件)、車の購入、食生活の改善などがあげられ、全般的に生活改善を希望していることがわかる。

### 3. 1. 9. 家事及び農業以外の作業の責任分担

回答者	夫			妻		
	夫	妻	子供	夫	妻	子供
家族1	x	x	x	x	x	x
2	x	x	x		x	x
3		x			x	x
4	x	x	x	x	x	x



5	x	x	x	x	x	x
6	x	x	x	x	x	x
7	x	x		x	x	
8	x	x		x	x	
9	x	x	x	x	x	x
10	x	x		x	x	x

夫の仕事：買い物、家畜の世話、たきぎ集め。

子供の仕事：子供が小さい場合や既に独立している場合は家事をしない。

妻の仕事：家事、農作業以外の仕事のほとんどを行なう。

家事の分担は一見適切のように思われる。ただし、料理、せんたく、そうじ、子供の世話などは妻が担当し、たきぎ集め、水くみ、家畜の世話は夫が担当することが多いが、これら夫の仕事も妻の大半がしている。しかし、妻が病気の場合は夫が代理で家事をすることもある。

### 3. 1. 10. 将来への抱負

将来どのような生活を望むか。

番号	夫の回答	妻の回答
1	家族と共に静かに過ごす。	神の保護を受けながら、愛情に満たされ、平穏な生活をする。
2	生計を立てるため十分な収入を得て、必要な医療を受けられる。	必要な食料と医療を受けられる。
3	子供のために、生活レベルを上げる。	多大な苦勞をしなくても、十分に食べていける生活。
4	家族と生活する。	物質的な面で苦勞しない平穏な生活。精神的な満足は神のおぼしめし次第。
5	十分な食料を得て、平穏な生活をする。	必要なものが全て入手できる生活。
6	食生活と子供の教育を向上させるため、収入をあげたい。	別に金持ちになりたいわけでもないけれど、娘達ともう少しいい生活をしたい。
7	家族と共に静かに過ごす。	十分な食料、薬、衣服、その他家に必要なものを得られるよう、神の思し召しを願う。
8	家族と共に幸福な生活。	平和、愛情、幸福、家族の団結のある生活。
9	家族の生活の保証	家族と仲良く、食事に困らない生活。何か、職業を身につけたい。
10	仕事や収入の道がいつもあること。	仕事があり、ある程度の経済的収入のある働く生活。

男性10人とも静かで、家族に苦勞させない生活、仕事のある生活、つまり、安定した収入のある将来を希望している。女性に関しては愛情と家族の団結及び安定した収入を希望し、

特別金持ちになりたいというのではないが、家、食料、薬、子供の教育などがある程度確保された、「人並みの生活」を望んでいる。また、夫婦とも家族の面倒をみる責任感が強く、全員、個人としてではなく、家族の将来の抱負を述べた。女性1人だけが家族に関する希望の他に、自分で何か専門職をみにつけたいと答えた。

### 3. 1. 11. 精神面の満足度

いつ幸せだと感じるか。その理由は。

番号	夫の回答	妻の回答
1	豊作の時。	教会で神について教えている時。(カテシスモの教師：教会の日曜学校のようなもの。)
2	健康で、食料が充分確保されている時。	病気が回復している時。
3	豊作の時。	休む時間がとれた時。
4	健康で、家族に十分な食料が確保されている時	問題がない時。夫や子供と一緒にいる時。
5	問題が解決した時。	健康な時。食べ物が無い方が病気であるよりまし。(食べ物がたくさんあっても、病気ではしかなかったが。)
6	健康で、家族に十分な食料が確保され、その家族と一緒にいる時。	今の生活では幸せだと思うことがほとんどない。娘が進級できた時だけ少しうれしく思う。
7	家族と一緒にいる時。	いつも幸せ。
8	健康で、家族と一緒にいる時。	家族や近所の人と仲良く一緒にいる時。
9	豊作の時。	家族がみんな一緒にいる時。
10	豊作の時。	家に必要なものを手にいれることができた時

男性10人のうち、6人は豊作で、十分な収入が予想される時に幸福を感じると答えたのに対し、女性の方は精神面での幸福、つまり、夫や子供と一緒にいる時が幸福であると答えた。神を信じるのが幸福であると思うことで、苦しい生活の支えとしているようである。

また、収入、住宅、家族の団結などが幸福度のバロメーターであり、個人より、家族を優先することがこの地域の特徴である。

### 3. 2. トヒン (コツイ郡)

#### 3. 2. 1. 家族構成

##### 家族構成

夫婦 番号	現在同居している家族構成						
	2	3	4	5	6	7	8
1				X			
2			X				
3				X			
4							X
5					X		
6							X
7						X	
8					X		
9				X			
10					X		

今回調査した夫婦の範囲は年齢は23才から61才で、妻が夫より13才上とか、夫が妻より28才も年上というケースがあったため、年齢差がかなり大きかった。10組のうち、5組が正式な婚姻をしており、残り5組は内縁の夫婦であった。

調査した夫婦のうち、6組は夫妻両方とも読み書きができ、1組は両方とも文盲であった。また、2組は妻は読み書きができるが、夫ができないケースであった。夫が大学生である夫婦が1組あった。

9組の夫婦はその土地で生まれ育ち、1組だけ別の県から移ってきた。

10組の夫婦はあわせて39人の子供や孫の面倒をみており、そのうち19人が女で、20人は男であった。女19人のうち、17人が娘、2人が孫で、男20人のうち、16人が息子で、4人が孫であった。夫婦の扶養家族のうち、25人は初等課程に就学中で、6人が中等課程、1人が大学に在学中で、7人が学校には通っていないが、読み書きができるということであった。夫の仕事は農業が主で、妻は家事が主であった。

#### 3. 2. 2. 宗教

調査した夫婦及び扶養家族の全てがカトリック教信者であった。(ただし、全員が敬虔な信者であるとは限らない。)

### 3. 2. 3. 土地の所有

番号	夫			妻		
	土地の所有	面積 (タレア)	所有者	土地の所有	面積 (タレア)	所有者
1	自分の土地	17	夫	自分の土地	17	夫
2	農地改革	3	妻	借地	1	妻
3	農地改革	40	夫・妻	農地改革	20	夫・妻
	自分の土地	8	夫	農地改革	6	夫
4	農地改革	60	夫・妻	農地改革	20	夫・妻
	自分の土地	8	夫	自分の土地	15	夫
5	農地改革	25	夫・妻	自分の土地	30	夫・妻
	遺産相続	2.5	夫			
6	農地改革	12	夫・妻	農地改革	不明	夫
	自分の土地	35	夫	自分の土地	不明	
7	農地改革	30	夫・妻	農地改革	不明	夫
8	農地改革	16	夫・妻	農地改革	16	夫
	自分の土地	15	夫			
9	農地改革	27	夫・妻	自分の土地	不明	夫・妻
	自分の土地	3	妻			
10	農地改革	60	夫・妻	農地改革	50	夫・妻
	農地改革	10	妻	自分の土地	83	夫
	自分の土地	80	夫			

調査した農家はあわせて450タレアの土地を所有している。8組は農地改革で入植した農家で、2組は遺産相続や土地を購入して、自分の土地を持っている農家である。

土地の面積は3タレア（1組）、40タレア未満（5組）及び40タレア以上（4組）である。女性は自分が土地の所有者あるいは夫と妻両方が共有者であると答えているが、正確な面積を知らない。3人の妻が親からの遺産相続で自分の土地を持っている。

男性は農地改革で配分された土地については「妻と共有地」と答えているが、自分で購入した土地については「自分の土地」と答えている。

### 3. 2. 4. 農作業暦

番号	男			女		
	作物	植付時期	収穫時期	作物	植付時期	収穫時期
1	該当しない。	回答なし	回答なし	不明	回答なし	回答なし
2	胡椒	6月	回答なし	胡椒	回答なし	5月

番号	男			女		
	作物	植付時期	収穫時期	作物	植付時期	収穫時期
3	該当しない。			グアンドゥール、 キャッサバ、 パッションフルーツ	12月 2年	一年中
4	プラタノ アカシア	1月 11月		不明	回答なし	回答なし
5	ピーマン プラタノ	6月 8月		夫が考える。	回答なし	回答なし
6	ピーマン、とうもろ こし オレンジ 胡椒	5月 11月 1月		不明	回答なし	回答なし
7	ピーマン、グアン ドゥール、キャッサ バ	1月		グアンドゥール、 ピーマン、胡椒	5月 不明	12月
8	キャッサバ、 プラタノ	1月 5月		プラタノ、 キャッサバ、 胡椒	8月 5月 1993年	
9	該当しない。			該当しない。	回答なし	回答なし
10	パッションフルーツ プラタノ さといも かぼちゃ	11月 7月 11月 10月		キャッサバ プラタノ 豆	1月 12月 12月	7月 9月 9月

いも類、野菜、とうもろこし、グアンドゥール、かぼちゃなどの作物や果樹、用材となるアカシア樹などがこの地域の主要作物である。調査した農家は全て胡椒を栽培している。自給作物が大半で、作物の種類に応じて農作業暦が多様である。女性も農作業暦をある程度把握している。(胡椒—5月、グアンドゥール、キャッサバ、パッションフルーツ—12月、ピーマン—5月から12月まで、インゲン豆—12月から3月、プラタノ—12月から9月、キャッサバ—1月から6月まで。)女性10人のうち、5人は農作業暦を答えられず、男性10人とも収穫の時期を回答しなかった。

### 3. 2. 5. 作物の種類や栽培する場所に関する決定

農家番号	回答者	
	夫	妻
1	夫が決定する	夫が決定する
2	夫が決定する	夫婦で話し合う
3	夫婦で話し合う	夫が決定する

農家番号	回答者	
	夫	妻
4	夫が決定する	夫婦で話し合う
5	夫が決定する	夫婦で話し合う
6	夫婦で話し合う	夫が決定する
7	夫婦で話し合う	夫婦で話し合う
8	夫婦で話し合う	夫婦で話し合う
9	夫が決定する	夫が決定する
10	夫婦で話し合う	夫が決定する

男性10人のうち、5人は自分が決定するといひ、残り5人は夫婦で話し合つて決定すると答へた。「夫婦で話し合う」と答へた女性3人、「夫が決める」と答へた女性5人であつた。この質問の回答について充分検討した結果、基本的には夫が栽培する作物や場所を決定し、妻に説明して了解を得ると判断した方が正しいという結論に達した。

### 3. 2. 6. 家 計

#### 家庭の収入及び支出

番号 回答者	生産物の販売		生産物の販売場所		収入の用途		収入の用途の決定	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
1	夫	夫・妻	コツイ	生産地	生活費	生活費	夫・妻	妻
2	夫	夫・妻	コツイ	胡椒プロジェクト	食費・教育費	該当しない	夫・妻	妻
3	夫・妻	夫	コツイ	コツイ	食費・医療費	食費	夫・妻	不明
4	夫	夫・妻	生産地内	コツイ	食費・医療費	生活費	夫・妻	夫・妻
5	夫	夫・妻	生産地内	生産地内	生活費	生活費	夫・妻	夫・妻
6	夫	夫	生産地、コツイ、サントドミンゴ	コツイ	貯蓄	生活費	夫・妻	夫・妻
7	夫	夫	コツイ、	生産地内	生活費	生活費	妻	夫・妻
8	夫・妻	夫	コツイ、サントドミンゴ	生産地内	生活費	生活費	夫	夫・妻
9	夫	夫	コツイ	生産地内	生活費	生活費	夫・妻	夫・妻
10	夫	夫	胡椒生産者組合	生産地内	生活費	食費	夫・妻	夫・妻

男性は自分が生産物の販売をすると回答し、女性10人のうち6人も夫が販売すると回答した。残りの女性は両方が販売すると回答した。男性は生産物は主にコツイで販売し、女性は生産地内で中間業者に直接販売する。

男女とも収入の全てを食費、医療費、教育費などの生活費や貯蓄にあてると回答している。収入の使いみちは女性の1人は自分がきめ、1人は分からないと答えた以外は、全員男女とも両方で話し合っていると答えた。

### 3. 2. 7. 収入に関する女性の権限

女性が収入を自由に使う事ができるかどうか。

農家番号	夫の回答	妻の回答
1	妻は収入がない	できる
2	できる	できる*
3	できる	できない
4	できる	できる
5	妻は収入がない	できる
6	できる	できる
7	妻は収入がない	できる
8	未回答	できる
9	妻は収入がない	できる
10	未回答	できる

\*収入は夫と共同で使う。

男性4人は妻も収入を使うことができると答え、4人は妻は収入がないといい、残り2人は未回答であった。

### 3. 2. 8. 胡椒栽培

番号 回答者	胡椒の樹齢 (年数)		栽培本数		胡椒による収入の用途		将来の収入の用途	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
1	5ヶ月	1996	100	100	未収穫	該当しない	胡椒の栽培 本数を増や す	家の購入と 子供の服を 買う
2	1年	6ヶ月	114	100	該当しない	該当しない	土地を買う	定期預金
3	1年8ヶ月	7ヶ月	300	300	該当しない	該当しない	家畜を買う	生活費
4	22ヶ月	1年	86	200	該当しない	該当しない	土地と家畜 を買う	家具、子供 の服を買う
5	2年	2年	100	90	該当しない	家の修理、 家具	土地の購 入、生活費	生活レベル の向上
6	1年半	1年	350	未回答	該当しない	該当しない	家具、教育 費	住居改修

番号	胡椒の樹齢 (年数)		栽培本数		胡椒による収入の用途		将来の収入の用途	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
7	3年	1年	100	未回答	該当しない	該当しない	コルマード (雑貨店) を大きくする	住居改修
8	1年半	1年	100	未回答	該当しない	該当しない	栽培面積を広げる、作物の種類を増やす、オートバイの修理	住居改修
9	5年	7年	242	100	家具の購入	生活費	ベット、牛を買う	該当しない
10	4年	4年	110	100	パッションフルーツ植え付け、食費	入院費	家具の修理、生活費	住居建築

胡椒の年数は7戸が2年以下、3戸が3年以上(そのうち1戸は5年)で、夫と妻のいう年数が一致しないことが多かった。男性のいう年数の方が正確であった。栽培本数は80から350本で、これも男性と女性で本数が合わなかった。また、女性のうち3人は本数を答えることができなかった。胡椒であげた収益の用途については7戸がまだ収穫していないため該当せず、収穫した3戸は生活費や医療費にあてた。

将来の胡椒栽培の収入については男性は、商売の拡大、家畜の購入、住居や家具の修理、購入などを希望し、女性は大半が住居や家具の修理や購入を希望し、女性の1人だけが定期預金を持ちたいと答えた。

### 3. 2. 9. 家事及び農業以外の作業の責任分担

回答者	夫			妻		
	夫	妻	子供	夫	妻	子供
家族1	x	x		x	x	
2	x	x	x	x	x	x
3	x	x	x	x	x	
4	x	x	x	x	x	x
5	x	x	x	x	x	x
6		x	x	x	x	x
7	x	x	x	x	x	x
8	x	x	x	x	x	x
9	x	x	x	x	x	x
10	x	x	x	x	x	x



女性は家事や農業以外の作業のほとんどを引き受けているが、男性が一番参加度が低い。

### 3. 2. 10. 将来への抱負

将来どのような生活を望むか。

番号	夫の回答	妻の回答
1	家族と平穏な生活。	家とお金があり、子供を十分世話できる生活。
2	村の発展に貢献できるような職業を持つ。	縫製の仕事をしたり、縫製技術のクラスを開く。
3	家族を養っていけるだけの収入があること。	村に住みながら、収入を得ることのできる生活。
4	家族と一緒に村に住む。	夫や子供と今の生活を続ける。
5	平穏な生活。	家事をして、教会へ通う。
6	子供達の教育、老後を子供にみてもらう。	夫共に収入をふやす。
7	未回答。	仕事をして収入をふやす。
8	食料を得ることと、健康でいること。	小さい雑貨屋を開く。
9	家族を養えるだけの収入を得る。	平穏な生活。
10	秩序ある生活、いい生産者になる。	子供の教育のためにコツイへ移りたい。

調査した農家は平穏な生活、家族を養う、子供の教育、村に住むことなどを将来の抱負としてあげ、女性は平穏な生活とあわせて、小さい商売、子供が教育を受けられるように支援することなど具体的な回答をあげた。総体的にみると、全員、自分達と村全体の発展を望んでいることがわかる。

### 3. 2. 11. 精神面の満足度

いつ幸せだと感じるか。その理由は。

番号	夫の回答	妻の回答
1	借金がない時。	家事を終えて休める時
2	村の行事に参加している時。	いつも幸せ。
3	健康な時。	幸せな時がない。
4	借金がなくて、食べ物が充分ある時。	いつも幸せ。
5	仕事を終え、家族と一緒に過ごす時。豊作の時。	子供が全員家に戻ってきて、もてなすことができる時。
6	豊作の時。	クリスマスや母の日。家族が集まる日だから。
7	クリスマスの時に家族が集まる。	休みで、家族がみんな集まる時。
8	クリスマスや聖週間。	夫が収入がある時。子供が健康で満足している時。夫がけんかしたり、しっとしていない時。
9	貧乏人は幸せと感じるときはない。	母親がなくなったばかりなので、幸福に思えない。
10	家族が家に集まっている時。仕事をしている時、食料が十分にある時。	子供が進級できた時。教育は最高の遺産だと思うから。

男性は借金を払い、家族の生活費が十分まかなえる時に幸せだと思い、健康な時とクリスマスなどで家族が集まる時が最も幸せな時であるという。1人だけ、「貧乏人は幸せになれない。」と答えた。

女性は家族の団結と子供達にかかる費用が十分に賄えるときに幸せだと感じるというのが大半だが、2人だけ、幸せな時がないと答えた。また、家事など仕事をおえ、休んでいる時に幸せと感じる。経済面でのゆとりと家族の安泰が幸福の原点であるように思われる。

### 3. 3. ラ・マハグア (サマナ県サンチェス郡)

#### 3. 3. 1. 家族構成

##### 家族構成

夫婦 番号	現在同居している家族構成									
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
1					x					
2										x
3						x				
4		x								
5	x									
6				x						
7									x	
8					x					
9					x					
10									x	

今回調査した夫婦の年齢の範囲は33才から63才で、夫婦間の年齢差は5才から23才までで、全て夫が妻より年上であった。

調査した夫婦のうち、5組は正式に婚姻しており、残り5組は内縁の夫婦であった。10組のうち8組は親と子供だけの核家族だが、残り2組は孫や家族以外の者が同居していた。5組は夫婦両方とも読み書きができ、2組は両方とも文盲であった。

9組の夫婦がその土地で生まれ育ち、1組だけ別の県から移ってきた。トヒンのケースと同様にこの夫婦も入植地内の土地を購入し、移り住んで来たものである。

10組の夫婦はあわせて37人の子供や孫の面倒をみており、そのうち12人が娘で、20人は息子、孫4人(男児2人、女児2人)である。このうち、24人は初等課程に就学

中で、1人が中等課程、4人が大学に在学中で、5人が学校には通っていない。夫の仕事は農業が主で、妻は家事が主であった。

### 3. 3. 2. 宗教

調査した10組の夫婦のうち、9組がカトリック教信者で、扶養家族についても同比率であった。

### 3. 3. 3. 土地の所有

番号	夫			妻		
	土地の所有	面積 (クレア)	所有者	土地の所有	面積 (クレア)	所有者
1	農地改革	200	夫・妻	農地改革 自分の土地	110 10	夫 妻
2	農地改革	30	夫・妻	農地改革 自分の土地	40 20	夫 夫・妻
3	自分の土地	23	妻	農地改革 自分の土地	40 3	夫 妻
4	農地改革	40	夫・妻	農地改革 国有地	40 10	夫 妻
5	農地改革 自分の土地	40 85	妻 夫・妻	農地改革	50	夫・妻
6	自分の土地	20	夫・妻	農地改革	50	夫・妻
7	農地改革	不明	夫・妻	農地改革 国有地	40 10	夫 夫・妻
8	自分の土地 農地改革	40 不明	夫 妻	農地改革 親戚の土地	35 30	夫・妻 妻
9	借地 借地	不明 不明	夫 妻	農地改革	40	夫
10	自分の土地 農地改革	8 20	夫 夫・妻	農地改革 自分の土地	20 8	夫・妻 夫

調査した農家はあわせて約500クレアの土地を所有している。1家族の所有する土地の面積は平均50クレアで、最大は110クレア(1戸)であった。全農家が「自分の土地」を持ち、その土地の所有権を完全に取得しているものと信じており、大半の場合は「夫と妻の共有地」とみなしている。

### 3. 3. 4. 農作業暦

番号	男			女		
	作物	植付時期	収穫時期	作物	植付時期	収穫時期
1	やまいも 胡椒	2	11月 5月	やまいも さといも 胡椒		
2	さといも とうもろこし キャッサバ グアンドゥール	3月 5月 5月 5月	97年2月	キャッサバ さつまいも 胡椒 グアンドゥール		
3	さといも	1月		さといも	8月	
4	オレガノ 胡椒・さつまいも シラントロ・キャッサバ	5月 5月 5月	11月 11月 11月	オレガノ		
5	胡椒		5月	該当しない		
6	サン・ラモン草			胡椒		
7	該当しない			該当しない		
8	該当しない			胡椒 さといも	5月	
9	該当しない			いも類		
10	キャッサバ さつまいも		8月 10月	キャッサバ 胡椒		

この地域の主要産物はピピオタ（紫さといも）で1月から3月が植えつけの時期である。また、他のイモ類、特に5月から11月が栽培期間の作物も植える。この地域では雨の問題のため、4農家が作物を植え付けなかったことは注目に値する。作物の種類は夫婦で大体一致していたが、妻の方は植え付け時期や収穫時期の月を正確にいうことができなかった。その他、同地域で栽培される主な作物は柑橘類、野菜、とうもろこし、グアンドゥール、かぼち、アカシア（川材）である。調査した農家は全て胡椒を栽培していた。

### 3. 3. 5. 栽培する作物の種類や場所に関する決定

農家番号	回答者	
	夫	妻
1	家族で話し合う	夫が決定する
2	家族で話し合う	夫が決定する
3	夫が決定する	夫が決定する
4	夫が決定する	夫が決定する
5	夫婦で話し合う	夫が決定する

農家番号	回答者	
	夫	妻
6	夫婦で話し合う	夫婦で話し合う
7	夫が決定する	夫が決定する
8	夫が決定する	夫婦で話し合う
9	夫婦で話し合う	夫が決定する
10	夫婦で話し合う	夫が決定する

男性10人のうち、6人は夫婦で話し合っ決めていい、2人は家族会議で決めると答えた。4人の男性は自分で決めると答えた。しかし、女性10人のうち、2人だけが夫が決定するのを助けていると答え、残り8人は夫が自分で栽培する作物の種類や場所を決めると思っている。

### 3.3.6. 家計

#### 家庭の収入及び支出

番号 回答者	生産物の販売		生産物の販売場所		収入の用途		収入の用途の決定	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
1	子供	夫	サントドミンゴ	サントドミンゴ	生活費	生活費、家畜の購入	家族	夫
2	夫	夫	ナグア	生産地内	生活費	生活費	家族	夫・妻
3		夫	生産地内	生産地内	食費・家	生活費	家族	夫
4	夫・子供	夫・妻	サンチェス、ナグア	生産地内	食費・住居費	生活費	夫・妻	夫
5	夫	夫	ナグア	生産地内	教育費	教育費	夫・妻	夫・妻
6	妻	夫	生産地内	胡椒プロジェクトが手配する。	生活費、教育費	不明	夫・妻	夫・妻
7	夫	夫	生産地内	生産地内	生活費	生活費	夫・妻	妻
8	夫	夫・妻	生産地内、サントドミンゴ	生産地内、サントドミンゴ	食費	家具の購入(投資)	夫・妻	夫・妻
9	夫	夫	生産地内	生産地内	食費	生活費	夫・妻	夫
10	夫	夫	ナグア	生産地内	食費	生活費	夫・妻	夫・妻

男性10人のうち、8人が自分が生産物の販売をすると回答しており、女性は10人とも夫が販売すると答え、1人だけ夫の販売の手伝いをすると答えた。

生産物の販売先は生産地内、ナグア、サントドミンゴ、サンチェスである。ただし、胡椒に関しては胡椒プロジェクトが販売の便宜を図っている。女性は販売先は生産地と答える者が多かったが、男性は他の場所をあげた。

生産物の販売による収入は生活費、食費、服、教育費、医療費などにあてられる。収入の用途や用途の決定者については夫婦が一致している。女性10人のうち、3人だけが、夫が決定すると答えた。

### 3. 3. 7. 収入に関する女性の権限

女性が収入を自由に使う事ができるかどうか。

農家番号	夫の回答	妻の回答
1	未回答	できる
2	未回答	未回答
3	未回答	未回答
4	未回答	未回答
5	できる*	できる
6	できる*	できる*
7	未回答	未回答
8	未回答	未回答
9	未回答	できない
10	未回答	できる

男性10人中、8人はこの質問に回答しなかった。これは何かアンケートの質問には現れない事情があると思われ、深く追究すべきである。男性の2人は妻も収入を使うことができると答えたが、事前に自分の承諾が必要であるといった。女性10人のうち、5人は未回答であった。女性の1人は絶対にできないと断言し、1人は事前に夫の了解を得れば使うことができ、3人は全く自由に使えるといった。

### 3. 3. 8. 胡椒栽培

番号	胡椒の樹齢.(年数)		栽培本数		胡椒による収入の用途		将来の収入の用途	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
1	4年	3年	300	100	食費、 医療費	農業投資、 食費	住居改修、 家畜の購入	家畜の購入 (投資)
2	6ヶ月	6ヶ月	100	98	未収穫	未収穫	住居改修	家族の必要 経費、子供 の教育費
3	3年	3年	99	93	食費、衣服	食費	未回答	住居改修、 家具
4	6ヶ月	6ヶ月	100	100	未収穫	未収穫	住居の建設 工事完了	住居の建設 工事完了
5	6ヶ月	6ヶ月	104	200	未収穫	未収穫	住居修理	住居修理

番号 回答者	胡椒の樹齢 (年数)		栽培本数		胡椒による収入の用途		将来の収入の用途	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
6	1年半	1年	105	100	未回答	生活費	胡椒の本数を増やす、住居改修	住居改修、家族の教育費
7	4年	不明	100	不明	食費	不明	家畜の購入、生活費	不明
8	6ヶ月	6ヶ月	105	未回答	未収穫	未収穫	家畜の購入、住居改修	生活費
9	6ヶ月	不明	100	不明	未収穫	未収穫	食費、住居改修	住居改修
10	3年	3年	103	105	食費、子供の教育費	生活費	貯蓄、住居改修、子供の教育費	住居改修完了

胡椒の年数は4戸が3年以上、1戸が1年で、それ以外は1年未満、つまり、胡椒栽培を始めてまもない農家である。女性10人のうち、2人が自分達が栽培している胡椒の年数を知らなかったことは注目すべきである。

栽培本数は大体100本前後で、夫婦間で本数が一致せず、女性2人は本数を知らなかった。胡椒の収益金の用途はいろいろな生活費であった。

将来の胡椒栽培の収入の用途は事業投資、家具の購入、教育費などで、調査した全部の農家の夫婦とも住居改修を希望している。

### 3. 3. 9. 家事及び農業以外の作業の責任分担

回答者 分担者	夫			妻		
	夫	妻	子供	夫	妻	子供
家族1		x	x		x	x
2		x	x		x	x
3		x			x	x
4	x	x		x	x	x
5		x			x	
6		x	x	x	x	x
7		x	孫(女兒)	x	x	
8		x	x		x	x
9		x	x		x	x
10		x	孫(女兒)		x	x

男性10人とも、家事の主体は妻で、子供や孫が手伝っているものと認識されていた。女性側はやはり自分達が主に家事を引き受け、子供が孫が手伝っていると回答した。女性4人はたきぎ集め、水くみ、家畜の世話など、通常男性の仕事とみなされているものについては、夫が手伝ってくれていると答えた。

### 3. 3. 10. 将来への抱負

将来どのような生活を望むか。

番号	夫の回答	妻の回答
1	落ち着いた生活。	よりよい生活をしたい。
2	商売人になること。	今よりいい生活、大体満足した生活をしたい。
3	胡椒プロジェクトで仕事をしたい。	もっと快適な生活。
4	他人の助けになる生活。	日本人のような勤勉で文化的な生活。
5	未回答。	子供にとっていい生活。
6	落ち着いた生活。	もっと快適な生活。
7	快適な生活。	もっと落ち着いた生活。
8	家族と快適に過ごす。	もっといい生活。
9	仕事のある生活、もっと収入のある生活。	家を持つ生活。
10	快適な生活。	もっと快適な生活。

男女とも、もっと落ち着いた快適な生活を求め、これは収入を増やすことを意味する。また、家族への愛情と責任感が感じられる回答や、また、「日本人のような勤勉で文化的な生活を望む」という回答から、日本文化の影響も感じられた。

### 3. 3. 11. 精神面の満足度

いつ幸せだと感じるか。その理由は。

番号	夫の回答	妻の回答
1	食料が十分確保されている時。	夫といるといつも幸せ。
2	食料が十分確保されている時。	家族が平和に集まっている時。
3	食料が十分確保されている時。	子供の必要なものが与えられる時。
4	豊作の時。神の教えの通り、隣人に仕えることができる時。	辛いことや落胆している時に、神に祈る時。
5	健康で、農産物の販売が順調の時。	子供が成長し、尼僧になった娘を含めてみんな職業人となった今、落ち着いた生活。
6	家族と一緒にいる時。	神と一緒にだから、いつも幸せ。
7	健康で、食料が豊富にある時。	家事を終えて休める時。



番号	夫の回答	妻の回答
8	収入のある仕事がある時。	自分の母親や子供が元気な時。
9	幸せな時はない。	同地の居心地が悪いので、幸せに思えない。
10	クリスマスに家族が集まる時。	子供に十分な食料がある時。

男性10人のうち、最も多かったのは「十分な食料や収入が確保されている時」という答えで、6人がそう答えた。他3人は家族にかかわる幸せと神への信仰から生まれた幸福感について言及し、1人だけ「幸せな時がない」と答えた。女性に関しては、幸福感は家族や神の存在と関係し、女性の1人は夫ともども同地出身ではないため、居心地が悪く、故郷をなつかしんでいる。

全体的に食料の豊富さと幸福感は関係があり、食料不足が生活の基本的な問題であることがわかった。

#### IV. 3地域のアンケート結果のまとめ

表1：家族構成

人数	農家数	%
2	1	3
3	1	3
4	2	7
5	8	27
6	8	27
7	3	10
8	2	7
9	1	3
10人以上	4	13
計	30	100

今回調査した30農家のうち、26農家は5人以上で構成され、6人以上を大多数家族とみなすのであれば、18戸がこれに相当する。4家族、つまり13%が4人以下で構成されている農家であった。

表2：宗教

宗教の種類	人数	%
カトリック教	51	85
その他	5	8
無宗教	4	7
計	60	100

カトリック教はドミニカ共和国の国教であり、今回調査した60人中、85%がカトリック教信者であると答えた。しかし、ドミニカでは実際は何も宗教も信じていない場合、適当にカトリック教徒であると答えることも多い。

表3：栽培作物の種類

作物名	農家数	%
胡椒	30	100
果樹	12	40
ココやし	7	23
さといも	8	27
キャッサバ (キャッサバ)	4	13
カカオ	6	20
コーヒー	3	10

表3に示すとおり、胡椒は全部の農家で栽培され、果樹、さといもなどがこれに準じる。

表4：土地の所有状況

土地の所有状況	農家数*	%
農地改革で配分された土地	52	87
自分の土地	16	27
親の遺産	6	10
無償貸与	5	8
有償貸与	1	2

注) \* : 1農家が複数の土地を持つこともある。

一番多い土地は農地改革で配分された土地で、全体の87%に相当し、ついで自分の土地が27%である。全体の合計が100%を越すのは、1農家が複数の土地を所有し、それぞれ入手方法が異なっていることがあるからである。

表5：土地の所有権

所有者	農家数	%
夫	39	45
妻	14	16
夫・妻の共有地	33	39
計	86	100

土地の所有者は男性が多く（45％）で、ついで夫と妻の共有地である。（付録図2参照）

表6：栽培する作物の種類や栽培場所に関する決定権

決定者	人数	%
夫	34	57
妻	---	---
夫と妻が話し合って決める	24	40
家族で話し合って決める	2	3
計	60	100

胡椒の栽培に関しては、胡椒プロジェクトの技術員が候補地の評価を行なった上で、栽培場所を決めたという特別の事情がある。（付録I：図3参照）

胡椒を栽培する動機は胡椒が収益が高い作物であることや、プロジェクトの技術員の普及が効果をあげたといえる。農家の中には日本人がかかわっていることも励みとなったという者もいた。

表7：農産物の販売

販売者	人数	%
夫	46	77
妻	4	7
夫・妻	8	13
子供	2	3
計	60	100

収益の高い作物に関しては、販売活動の主体は夫で、妻の販売量は農産物、家畜とも少ない。（付録I：図4参照）

表8：農産物の販売場所

販売場所	人数	%
生産地内	27	45
サント・ドミンゴ	14	23
その他	19	32
計	60	100

農産物の販売は生産地内で行なわれることが最も多く（45％）、ドミニカ共和国の首都サントドミンゴ市がこれに次ぐ。（付録I：図5参照）

表 9 : 農産物販売の収入の用途

用途	農家数	%
家族の生活費	29	97
その他	1	3
計	30	100

収入の殆どは食費、衣服、教育費など生活費にあてられる。(付録I: 図6参照)

表 10 : 収入の用途の決定者

決定者	農家数	%
夫	5	17
妻	---	---
夫婦で話し合って決める	23	76
家族で話し合って決める	2	7
計	30	100

収入の用途の決定は夫婦間で話し合って決めるというのはよいことで、今回の調査対象の農家の76%に相当する。(付録I: 図7参照) この結果と女性が自分で収入を使う自由度に関する結果と比べてみるとおもしろいだろう。

表 11 : 女性が自分の収入を使う自由度

夫の回答			妻の回答		
回答	人数	%	回答	人数	%
自由に使える	9	30	自由に使える	19	64
使えない	3	10	使えない	4	13
未回答	18	60	未回答	7	23
計	30	100	計	30	100

この質問に対し、男性の60%が未回答であったことは、更に深く追究する必要があるが、男性の夫としての妻への権限の強さをうかがわせる。

表 12 : 資金の貸し付け

資金貸付	人数	%	対象者	人数	%
受けたことがある	38	63	夫	29	76
受けたことがない	22	37	妻	9	24
計	60	100	計	38	100

(付録I: 図8参照)

表13：胡椒の樹齢

樹齢	農家数	%
1年未満	7	23
1年目	6	20
2年目	7	23
3年目	4	13
4年目	4	13
5年目	2	17
計	30	99

調査対象の農家で栽培されている胡椒の多く（66%）が生産段階に入っている。

表14：農家単位の胡椒栽培本数

本数	農家数	%
100本	12	40
101本以上	16	53
99本以上	2	7
計	30	100

現在100本以上栽培している農家が53%を占め、99本いかが7%しかないことから、本数を増加させる傾向があることがわかる。（付録I：図9参照）

表15：胡椒栽培の収入の用途

用途	農家数	%
生活費	6	20
住居新規建設・改築	11	37
家畜の購入	5	17
土地の購入	2	7
貯蓄	3	10
車の購入	2	7
子供の教育費	1	3
計	30	101

収穫していないか、あるいは収穫量が少ないため、実際に収入がよくなったといえる農家は少ない。しかしながら、調査した農家の37%が胡椒の売り上げを家の建設か改修費用にあてたことから、胡椒栽培が農家の生活向上に貢献していることがわかる。2戸が車両を買い、5戸が家畜を購入、1戸が土地を購入したことなどの成果があげられた。他、教育費にあてた農家が1戸、貯蓄した農家が1戸あった。（付録I：図10参照）

## V. 結論及び提言

### 5. 1. 結論

1. 胡椒開発計画によって普及された胡椒栽培は調査した農家の生活向上に効果をあげた。
2. 農家の夫婦両方とも、胡椒が収益の高い経済作物であり、収穫次第では住居建設や改修、その他の家庭に必要なことや問題が解決できる可能性があることを認識しているため、胡椒栽培への熱意が大きい。
3. 日本人は文化生活を営み、子供の頃から勤勉な国民性を育てているという評判があるため、胡椒を栽培している農家だけでなく、別の農家にも非常にいい印象を与えている。これら農家は「日本人のような生活をしたい」と言う。
4. 食料が豊富にあることが幸福度のバロメーターとしてあげることから、調査した3地域の食料などの物資の不足、農家の不安感、深刻な貧困ぶりがわかる。
5. 調査した農家の夫婦両方とも、快適な住居や十分な食料を確保し、子供の教育費がまかなえるだけの収入を望んでいることから、それぞれの家族に対する責任感強く、ある程度のレベルの生活を希望していることがわかる。
6. 調査した農家は正式に婚姻している夫婦や内縁の夫婦であり、平均5人の扶養家族を抱え、3地域とも家族間の愛情と団結が強いことが特徴である。
7. 土地の所有については農地改革の結果配分された土地が一番多く、夫婦の共有の土地として認識されている。一方では大半の農家が親からの遺産や自分達で購入した土地を持っており、作物を栽培している。夫が購入した土地については、妻は夫の土地であり、自分の土地ではないと明確に認識している。
8. 農業生産は販売価格の安い作物や自給作物に依存しているので、農業収入は低く、いわゆる自給農業が主である。その他、にわとりや豚などの家畜も飼っているが、頭数が少なく、一部は家庭で消費している。
9. 家計の主導権は家長である男性が握っており、男性が一般的には生産物の販売を担当して、その収益金の用途についての決定権も持っている。生活費については妻の意見も或程度反映される。
10. 家事や農作業以外の作業については女性の負担が非常に大きく、農作業については男性の負担が大きい。農村社会では伝統的に男性と女性による家事の分担がはっきりしてい

て、たきぎ集め、水くみ、買い物などは男性の仕事とみなされている。

11. 女性が自分の収入の用途を決定する自由に関しては、女性の大半が独立した収入がないため、自由度を押し量ることは実質的には難しい。回答は生活費に関しての用途を決定する自由度についてあげられた。
12. 性別による仕事の分担は明確で、農業など生産活動は男性、家事は女性となっており、男性の権限が強く、女性は女性としての役割をごく自然なものとして受け入れている。
13. 今回の調査はあくまでも胡椒開発計画の最終評価のサポート調査として行なわれ、厳密な統計指数は余り問題にしないとの、日本側の調査員のコメントに従ったという事情があるため、今回の結果は断定的なものではない。

## 5. 2. 提言

1. 胡椒開発計画を次のような方法で強化、拡大させる。
  - a. 現存の胡椒栽培農家に対しては栽培技術や市場調査技術の研修を行なう。
  - b. 地域別の胡椒栽培農家数を増やす。
  - c. 現在の胡椒生産量は国内消費量を満たさないことや、実際に収益をあげた農家自身の生活のニーズも完全に満たされていないことから、農家当たりの胡椒栽培本数を増やす。
2. 農村の持続的な開発をめざし、農業を支える活動として、地域別の一般農民を対象とした農民組織作り、栄養、女性の社会参加等をテーマとした研修活動を行なう。
3. 胡椒栽培普及地域が必要とする教育、医療、スポーツ、女性振興、山間道路の整備、住宅整備、農産物の流通（現在の流通機構では十分に市場開拓されていない農産部）などの事業について、胡椒開発計画が政府機関や非政府機関とのコーディネーションをとりながら、振興していく。たとえば、シェラ・プリエタやトヒンのグレープフルーツやラ・マハグアのさといも（ピピオタ）の流通改善があげられる。
4. 若者を含めた地域の住民の協力を得て、地域の問題を深く分析し、社会経済投資を含めて効果的な開発戦略を検討する。
5. 他の農産物の生産量及び生産性をあげて、農家の収入を増加させ、地域農民の生活を図るために、胡椒プロジェクトによって育成される農民リーダーの指導力を活用する。
6. 将来の胡椒輸出のために基盤作りを始める。カリブ諸国、少なくとも隣国ハイチへの輸出を目指す。

# 胡椒開発計画フエーズII

## 営農計画(案)

1996年9月

### 目 次

- 1 胡椒普及対象地の農家経済調査の結果
  - 1) 農家の一般概況データ
  - 2) 農家の営農状況データ
  - 3) 営農状況概観
  
- 2 対象農家の経営診断
  - 1) 現在の農業経営の特徴
  - 2) 農業経営改善の戦略
  
- 3 営農計画
  - 1) 胡椒栽培概要
  - 2) 胡椒100本(1.5㍍) 経営収支
  - 3) 胡椒を取り込んだ経営形態別営農計画
    - (1) 総合型：胡椒・永年作物・短期作物・家畜・緑肥
    - (2) 永年作型：胡椒・永年作物・自給作物・緑肥
    - (3) 短期作型：胡椒・短期作物・自給作物・緑肥
    - (4) 畜産型：胡椒・家畜・自給作物・緑肥

(1996年10月10日矢澤)



# 1 胡椒普及対象地の農家経済調査の結果

この調査結果は1995年7月28日より8月30日までヤマサ郡シェラ・ブリエタ地区の農地庁入植地AC127で胡椒栽培を始めた試作農家103戸を対象にして実施したものである。

なお、本調査の実施はコンサルタント会社Fortuna & Asociadosに依頼した。

## 1) 農家の一般概況データ

### 1-1 農家の居住地

28戸(27%)が入植地に居住し、75戸(73%)が入植地に隣接した場所に居住している。

### 1-2 文盲率

79名(77%)が読み書きができるが24名(23%)はできず、この数字は全国平均の15%よりも高い。

### 1-3 生活形態

97名(94%)が配偶者と同居しているが、その内40名(39%)は法的婚姻はしていず同棲になっている。

### 1-4 扶養家族

扶養家族	1-2	3-4	5-6	7-8	8<
農家数	8	25	29	17	24

46戸が5-8人の扶養家族を抱え、24戸もの農家が8名以上の扶養家族を抱えている。当国の平均家族数と比べ調査対象地域は扶養家族の多いことがうかがえる。

### 1-5 所有土地面積

面積 (㌔)	1-10	11-30	31-60	60<
農家数	19	21	43	20

81%の農民は11㌔以上の土地を保有し、その内63%の者は31㌔以上の土地を有している。

### 1-6 入植後の年数

年数	1-5	6-10	11-20	20<	不明
農家数	10	2	11	75	5

88%の農家は入植後10年が経過しており、その内75戸は20年を経過した入植者である。

1-7 1戸当たりの胡椒の栽培本数と植え付け年度

栽培本数	<100	100	100<	植え付け年度	1991	1994
農家数	17	72	14	農家数	5	98

植え付け本数は100本であったが枯死また追加補植により現在は栽培本数に幅がでている。植え付け年度は大半の98%が1994年である。

1-8 胡椒希望栽培本数

希望本数	<100	100	100-200	200<
農家数	3	46	34	14

試作農家への提供苗本数は100本であるが97%の農家が100本以上の増加を望んでいる。

1-9 家族労働力

労働人数	<1.0	1.1-2.0	2.1-3.0	3.1-5.0	5<
農家数	2	54	26	20	1

98%の農家が1-2名の家族労働力を持ち、およそ半数の農家が3-4名の家族労働力を有している。

1-10 労働力の備上

人夫の傭上日数	0	1-10	11-20	21-40	41<
農家数	48	16	16	9	14

家族労働力は十分あるものの、何らかの作業で外部より労働力を傭上している。

1-11 出稼ぎ

出稼ぎ日数	0	<10	10-30	31-50	51-100	100<
農家数	66	3	4	3	10	17

34戸の農家が日雇いにており、その内10名は51日以上外部で働いている。なお当地の労働賃は50-60ペソである。

## 2) 農家の経営状況データ

### 2-1 永年作物の栽培状況

栽培面積	<10	10-20	21-50	50>
農家数	58	22	19	4

およそ半数の農家が果樹等の永年作物を10㌧以上植え付けている。

### 2-2 短期作物の栽培面積

栽培面積	0	1-5	6-10	11-20	20<
農家数	15	37	26	14	11

短期作物（豆類等）の面積は永年作物の面積より少なく15戸の農家がなにも作らず、およそ半数の農家が5㌧以下しか短期作物を作っていない。

### 2-3 短期作物の㌧ア当たりの粗収入

粗収入（㌧）	300-500	501-1,000	1,000<
農家数	39	48	1

短期作物の面積当たり（㌧ア）の粗収入にはかなりの幅があり、39戸が300-500㌧で48戸が501-1,000㌧の収入を得ている。平均ではおよそ600㌧になる。

### 2-4 飼料作物の面積

栽培面積	0	1-10	11-30	31-50	50<
農家数	54	23	15	8	3

およそ半数の農家が家畜用の牧草を栽培しているが、そのほとんどが10㌧以下の面積である。平均は9㌧。

### 2-5 林野面積

林野面積	0	<10	10-20	20<
農家数	84	12	5	2

ほとんどの農家が林野を持たず10㌧以上を所有している農家はわずか7戸にすぎない。

2-6 休耕地

休耕面積	0	1-10	11-20	21-40	40<
農家数	20	38	14	19	12

およそ半数の農家が10ha以上の休耕地を抱えていて、他の作物を導入できる余地を示している。

2-7 所有する農機具と車輛

	農業機械	車輛	農具
所有農家数	1	15	100
なし	102	88	3

ほとんどの農家は農業機械を所有せず、マチエテ（山刀）等の農具だけで作業をしている。車輛については4戸がピックアップ、11戸がオートバイを所有している。

2-8 家畜の種類と用途

	豚	牛		馬	山羊	鶏
所有農家	47	57		55	17	85
なし	56	46		48	86	18
	豚	牛	牛乳	馬	山羊	鶏卵
自家消費	1	1	14	-	4	42
販売	10	6	-	-	1	1
兼用	6	1	8	-	-	12

半数の農家が豚や牛、鶏を飼育し、豚と牛は必要時に販売する重要な現金収入源になっている。牛乳と卵の多くは自家消費に充てられている。馬は道路事情の悪い当地の交通手段に用いられている。

## 2-9 果樹の種類

	胡椒	ココヤシ	柑橘	パッションフルーツ	カジュウ	マンゴー	カカオ	アボカド	アボカド
所有	183	91	87	66	68	59	54	45	45
なし	0	12	16	37	43	44	49	58	58
自家消費	-	27	14	6	-	24	-	4	27
販売	8	9	9	3	-	-	-	16	-
兼用	1	26	40	11	-	6	-	23	7

胡椒の試作農家を選んで調査をしているのですべての農家が胡椒を栽培している。販売に用いられている果樹類はココヤシ、柑橘、パッションフルーツであり、多くの果樹は自家消費で時折販売する形態をとっている。

## 2-10 短期作物の種類と用途

	キャッサバ	カボチャ	キヌメ	トモロコシ	バナナ
自家消費	19	-	3	6	12
販売	-	5	3	3	-
兼用	34	12	11	4	6

短期作物ではキャッサバ、バナナ、トモロコシが多く作られ続いて副食に用いられるキヌメ(Guandul)、カボチャが栽培されている。

## 2-11 農畜産物の販売収入 (単位：千ペソ)

販売額	<1	1-2	2-4	4-8	8-16	16-32	>32
農家数	16	8	18	17	21	6	2

農畜産物の販売収入額はかなりの幅が認められ、約半数の農家が年間2,000ペソから16,000ペソの収入を得ている。平均的には4,000-8,000ペソとみることができよう。

## 2-12 農家の銀行預金 (単位：千ペソ)

預金額	<0.1	0.1-0.5	2-4	4-7
農家数	97	2	1	3

97戸の農家が銀行預金がなく農業資金が乏しいことを示している。

2-13 農家の負債額 (単位：千円)

負債額	<1	1-2	2-4	4-8	8-16	>16
農家数	7	7	9	4	2	1

およそ40%の農家に負債がありその金額は1,000円から4,000円になっている。

2-14 営農支出の金額 (単位：千円)

支出額	<0.5	0.5-1	1-2	2-4	4-8	8-16	>16
農家数	44	11	14	11	11	4	1

44戸の農家が1年間の営農支出を500円以下としており、また4,000円以下の農家が80戸におよび、肥料等の農業生産資材にかける支出の少ないことがうかがえる。

2-15 農家の年間収入 (単位：千円)

収入額	<1	1-2	2-4	4-8	8-16	16-32	>32
農業収入	30	9	17	19	21	5	-
農害収入	1	4	10	28	27	18	5
総収入	1	2	4	24	37	30	5

農業収入をみると1,000円に満たない農家が30戸あり、8,000円に満たない農家が75戸に及んでいる。(平均5,700円)  
農外収入は73戸が4,000円から32,000円を稼いでいて農外収入の重要性がうかがえる。総収入はおよそ15,000円で農業収入の3倍近くになっている。

2-16 農家の年間支出 (単位：千円)

支出額	5-10	10-15	15-20	20-30	30-40	>40
農家数	28	39	15	14	6	1

5千円から1万円の支出農家が28戸、1万円から1万5千円の農家が39戸あり、2万円以下の農家が82戸になっている。当地の農家の生活の厳しさがうかがえる。

2-17 農家の収支バランス (単位:千円)

バランス	<0.1	0.1-0.2	0.2-0.4	0.4-1	1-2	2-4	4-8	8-16	>16
黒字農家	3	2	6	7	8	1	7	2	1
赤字農家	3	1	2	8	19	25	4	2	1
平衡農家	1								

1994年の農家の経営収支では65戸の農家が赤字を示している。

3) 営農状況概観

調査地域の農家の経営状況を概観すると、家族数は7-8人で入植後20年前後が経過している。現在の所有土地面積は40ヘクタール(1ヘクタールは6500m<sup>2</sup>)前後ですべての農家が胡椒の試作を受け入れている。

土地の利用状況は果樹等の永年作物を17.4ヘクタール(35.5%)、飼料作物を9.0ヘクタール(18.4%)、キャッサバ等の短期作物を7.4ヘクタール(15.1%)、林野2.3ヘクタール(4.7%)、休耕地12.9ヘクタール(26.3%)になっている。(注1 作付け面積の合計が土地所有面積を上回っているのは間作、混作、多毛作等の理由で作付け面積が大きく表現されている)

家畜については、半数の農家が豚、牛、鶏を飼っていて現金の必要時にそれらを販売し、農家にとって重要な現金収入源になっている。馬は道路事情の悪い当地の交通手段に用いられている。

販売に供される作物としては、果樹類ではココヤシ、柑橘、パッションフルーツ、アボカド、短期作物では主食になるキャッサバ、バナナ、トモロコシ、続いて副食になるキマメ(GUANDULE)、カボチャが多く作られている。畜産物との収入を合わせた農家の年間農畜産販売額はかなりの幅が認められ、およそ半数の農家が年間2,000円から16,000円の収入を得ていて、平均的には4,000-8,000円とみることができよう。

農作業に必要な農業機械類はほとんど所有していません、ほとんどマチェティ(山刀)のみで農作業をしている。しかし車輛として103戸のうち4戸がピックアップ、11戸がオートバイを所有している。年間の営農支出は44戸が5000円以下であり4,000円以下の農家が80戸におよび、肥料、農薬等の農業生産資材にかかる支出の少ないことがうかがえる。(平均的には2,200円) 農業生産収支のバランスでは7,400円の収入に対して2,200円の支出であり、低い農業収入のなかで生産資材の投下の極端に少ないことがうかがえる。

しかし農外収入は73戸が4,000円から32,000円を稼いでおり(平均12,000円)農業収入の2倍を越え、1戸あたりの総収入に占める農外収入の重要性がうかがえる。多くの農家は日本でいう第2種兼業農家(旧表現)といえる。

農家の年間支出についてみると、20,000円に満たない農家が82戸（全体に80%）におよび、特に5,000円～10,000円と低い農家が28戸、10,000円～15,000円が39戸あり、当地の農家の生活の厳しさと貧困度を示しているといえよう。

## 2 対象農家の経営診断

### 1) 現在の農業経営の特徴

- (1) 農業経営の柱になっている作物がない、農業収入の柱になるべき作物決まっていないので営農が散漫になっている。
- (2) 閉ざされた地域の自給自足営農になっている。農業情報や市場情報から隔離された僻地に所在しかつ生産物の出荷手段が乏しいので自給自足の営農を強いられている。
- (3) 出荷できる作物（品種）と出荷技術（品質、梱包等）が地域全体にない。いろいろな果樹があっても出荷・販売にたえる品種と栽培方法がとられていない。
- (4) 農業収入が低く農家の全体収入の1/3にしか至らず、多くの農家が日雇い労働にでている第2種兼業農家である。
- (5) 土地生産性についてのデータはないが、現場観察によると作物の生育は貧弱で土地の生産力は低いと観察される。収穫するだけの略奪農業になっている。
- (6) 営農資材が乏しく、かつ生産資材の購入資金がないので近代農法の導入が難しい。薬散等の防除技術・思考はほとんどない。

### 2) 農業経営改善の戦略（プリミチブな農業からの離陸）

胡椒は貯蔵性があり近年の価格も安定し（1996年黒胡椒の売値は1キロ当たり44円）農家にとって魅力ある作物になっている。しかし現在のところ主要病害であるエキ病とフザリウム病の抵抗性品種が育成されていないので耕種的に最善の注意を払わぬと予想外の病害の発生を招くことになる。このことは胡椒は専業や大規模経営にはリスクが大きくてそぐわぬことになるので、逆に一般作物栽培に不利な山間傾斜地の小農に適する作物といえる。この胡椒栽培の特徴を念頭におきながら以下に掲げられる胡椒栽培の適地に植え付けることと大規模・集約栽培にならぬように注意を払いながら胡椒を経営の一つの柱に据えて経営戦略をくむ。

- (1) 農業収入3万円を目標にし、その内1万円を胡椒生産より所得し残り2万円を他作物および畜産より所得する。



- (2) 胡椒は国際商品であり価格の下落もあることから規模を大きくした胡椒専業農家の育成をさけ、他作物と組み合わせた多角経営の中で胡椒農家を育成する。
- (3) 胡椒と組み合わせる永年作物、短期作物、畜産の経営規模の大小により永年作物農家、短期作物農家、畜産農家とし、それぞれの営農方針を定める。
- (4) 胡椒の導入により販売の見込める基幹作物の早期定着を図る。小農にたいする胡椒の適正経営規模として1戸当たり200本とする。
- (5) 緑肥の導入により地力の改善を計り、胡椒だけでなく他作物の生産性の向上を図る。
- (6) 堆肥等自給肥料の生産および改良品種の導入により他作物の営農改善。施肥の中心は自給できる堆肥、厩肥とする。
- (7) 飼料作物の改善により家畜飼育能力の向上。
- (8) 作物栽培と家畜との連携を強化し地力の維持と経営の安定を図る。糞尿の効果的利用による地力の維持。
- (9) 薬散等の作物保護管理に使う資機材が不備な現状なので集約・多収栽培より少肥・粗植の粗放栽培に重点を置く。
- (10) 労力は豊富な家族労働を主体とし雇用労力に頼らない農業経営をとる。

### 3 営農計画

#### 1) 胡椒の栽培概要

##### (1) 場所の選定

- ・ 傾斜地 (3-7)で雨水が停滞しない畑
- ・ 土壌pHは6.0 - 6.5 (5 - 6の畑は酸度の矯正が必要)
- ・ 前作に野菜を植えた畑は避ける。
- ・ 隣接して胡椒の畑また日陰を作る大木がないこと

##### (2) 支柱木の植え付け

- ・ 支柱木長さ3 - 3.5m,太さ5cmを100本用意
- ・ 栽植距離 3m x 3m 100本に1.5%必要 (900m)
- ・ 傾斜に沿って排水溝をつくる
- ・ 胡椒園周囲にも深さ50cmの排水溝を設置

(3) 胡椒の植え付け

- ・奨励品種はSingapura, Balankota (100本25ペソで分譲)
- ・葉数4-5枚、草丈20-25cmの健全な苗
- ・植え付け穴40 x 40 x 30cm
- ・堆肥2kg、化成肥料(12-24-12) 100gを元肥として使用
- ・支柱木より10cm離して植え付ける
- ・紐で胡椒を支柱木に誘引・固定
- ・定植後ヤシの葉で日陰を施す

(4) 植え付け1年以内の管理

- ・節部の不定根を支柱に固定
- ・支柱木は1年間底蔭のため側枝のみ剪定
- ・株の周囲50cmは手取り除草とし、畝は草生栽培
- ・追肥として株あたり化成肥料(12-24-12) 100gを施用

(5) 植え付け2年目以降の管理

- ・胡椒の固定、除草は前年に同じ
- ・支柱木は雨期の始まる4月および11月に1-2本の枝を残して切り取る(支柱木の剪定)
- ・追肥として株あたり化成肥料(12-24-12)を次表により施用

2年から5年次までの施肥量(1本当たり)

施肥時期	肥料の種類	2年次	3年次	4年次	5年次	合計
4月~5月	化成(12-24-12)	150g	300g	350g	350g	
	堆肥	3kg	-	-	-	
10月~11月	化成(12-24-12)	100g	200g	250g	250g	
合計	化成(12-24-12)	250g	500g	600g	600g	1,950g
	堆肥	3kg				

5年時以降は5年次に同じ

4年次における施肥成分量はN=72g, P=14g, K=72g(1本当たり)

10a当たり換算 N=8kg, P=16kg, K=8kg

7a当たり換算 N=5kg, P=10kg, K=5kg

(6) 収穫

- ・着色果が2-3個生じた果房
- ・収穫した果房を脱粒してビニール内に密閉し、太陽光に4-5時間当てる。
- ・その後4-5日間天日乾燥および精選。

2) 胡椒100本(1.5坪)の経営収支

年次	作業名	労力日数	必要資材	金額	備考
1年	堆肥の作成	1	苗木(100本)	25 <sup>△</sup> 〇	CENDETECA
	圃場準備	2	肥料(12-24-12)	90	200g/株
	支柱植え付け準備	3	堆肥	0	自給
	排水溝堀	2	紐	0	自給
	支柱植え付け	2	支柱	500	できれば自給
	除草	4			
	胡椒植え付け	1			
	胡椒の摘植	0.5			
	誘引・固定	0.5			
	支柱木の剪定	0.5			
	追肥	0.5			
(小計)	17	(小計)	615 <sup>△</sup> 〇		
2年	除草	2	肥料	113	追肥用250g/株
	支柱木の剪定	2	ポリシート	100	収穫乾燥用
	誘引・固定	1	出荷袋(5枚)	50	
	追肥・排水溝清掃	1	脚立	0	自家製
	収穫・調整	4			2年次より収穫開始
(小計)	10		263 <sup>△</sup> 〇		
3年	除草	1	肥料	225	
	支柱木の剪定	2	出荷袋(7枚)	70	
	追肥・排水溝清掃	1			
	収穫・調整	6			
(小計)	10	(小計)	295 <sup>△</sup> 〇		
4年	除草	1	肥料	279	
	支柱木の剪定	2	出荷袋(8枚)	80	
	追肥・排水溝清掃	1			
	収穫・調整	6			
(小計)	10	(小計)	359 <sup>△</sup> 〇		
5年	除草	1	肥料	279	
	支柱木の剪定	2	出荷袋(8枚)	80	
	追肥・排水溝清掃	1			
	収穫・調整	6			
(小計)	10	(小計)	359 <sup>△</sup> 〇		
合計		57日		1,891 <sup>△</sup> 〇	

注：労力は家族労力を当てる。

6年目より緑肥を植え付けていた畑に胡椒を更新植え付けする。

経営収支（単位：ペソ）

	予想収量	価格	粗収入	生産費	純収入	労働日数	労働報酬 /1日
第1年	—		0	615	-615	17日	
第2年	1.1kg/本	30 <sup>ペソ</sup>	3,300	263	3,037	10	304
第3年	1.5kg	30	4,500	295	4,205	10	421
第4年	2.0kg	30	6,000	359	5,641	10	564
第5年	2.0kg	30	6,000	359	5,641	10	564
合計	6.6kg		19,800	1,891	17,909	57日	

注：労働報酬は純収入を労働日数で除した金額  
 植え付け本数は100本、面積は1.5タレア  
 1996年1月から6月の黒胡椒の売値は44<sup>ペソ</sup>/kgの実績

3) 胡椒を取り込んだ経営形態別営農計画 (粗収入30、000ペソの営農戦略)

(1) 総合型: 胡椒・永年作物・短期作物・家畜・緑肥

小面積の多角経営で自家消費できる農産物がおおく安定経営型。  
営農経験の少ない農家向け。

分類	面積	作物の種類	本数	収量	単価	粗収入	備考
胡椒	3	ショウ	200	2kg	30ペソ	12,000	3年目
永年作物	15	ココヤシ(3) カンキウ(3) パッショナフルーツ(3) アボカド(3) バナナ(3)	20 20 80 20 300			10,000	自家用及び 販売用
短期作物	5	キャッサバ(2) キヌメ(2) トモロコシ(1)				5,000	
飼料作物	5	アルファルファ(1) トモロコシ(2) エルファラ(1) サマニ(1)					
緑肥	5	ルビノ(2) ムクナ(2) クローバ(1)					次の胡椒用
林野	5	コム					建材用 殺虫剤用
家畜	2	豚 牛(肥育) 山羊 鶏 馬 乳牛	5 2 3 30 1 1			5,000	厩肥の作成
合計	40					30,000	

作物名右側のカッコ内の数字はその作物の面積 (㌔)  
永年作物は収穫年齢に達してからの予想収量  
面積の単位は㌔、単価はkg当たり、収量の単位はkg  
基本的食糧は自給できる営農にする。  
家族労働力のみで営農できる規模にとどめる。

(2) 永年作型：胡椒・永年作物・自給作物・緑肥

果樹中心で長期安定型経営。土壌条件がよくかつ果樹結実年齢に達するまでの資金的審えが必要。  
当初の品種の選定に最大限の調査が肝要。

分類	面積	作物の種類	本数	収量	単価	粗収入	備考
胡椒	3	1709	200	2kg	30^7	12,000	3年目
永年作物	25	1179 カキ パッションフルーツ アボカド バナナ マンゴー				20,000	経営の安定を図るため3種類の果樹を選定する。
自給作物	2	キャッサバ キヌ トモロコシ サツマイン					基本的食糧は自給
緑肥	3	ルビノ ムク					次の胡椒用
林野	5	コム					建材用 殺虫剤用
家畜	2	豚 牛(肥育) 鶏 馬	3 1 10 1				厩肥の作成
合計	40					32,000	

永年作物は草生栽培とする。  
施肥の主体は自家製堆厩肥。

(3) 短期作型：胡椒・短期作物・自給作物・緑肥

農業経営の短期決戦型。初年度より農業収入が見込めるが地力の維持に注意が必要。 営農初期にこの形態をとり徐々に永年作物、家畜の導入を図る。 傾斜地での短期畑作物の栽培にはエロージョンと地力の低下に最大限の注意を払う。

分類	面積	作物の種類	本数	収量	単価	粗収入	備考
胡椒	3	ゴショウ	200	2kg	3000円	12,000	3年目
短期作物	20	キャッサバ(5) キャッサバ(10) カボチャ(3) カボチャ(2)				20,000	キャッサバは早生種使用 輪作の採用
自給作物	5	ゴキウ アボカド パッションフルーツ バナナ					基本的食糧は自給
緑肥	5	アサノ アサノ					次の胡椒用
林野	5	コナ					建材用 殺虫剤用
家畜	2	豚 牛(肥育) 鶏 馬	3 1 10 1				自家消費用
合計	40					32,000	

ナス科およびウリ科野菜を作るときは胡椒と同じ寄生性の病害が多いので注意。野菜の場合は貯蔵期間が短いので出荷のめどが立つ品目を選ぶ。

(4) 畜産型：胡椒・家畜・自給作物・緑肥

飼料作物との組み合わせで安定した農業経営をめざす。

家畜の糞尿の有効利用により飼料作物の生産性の向上を図る。

畜産の場合は当初の営農資金が高額になるので資金にゆとりのある者に限る。

分類	面積	作物の種類	本数	取量	単価	粗収入	備考
胡椒	3	ゴショウ	200	2kg	30000	12,000	3年目
飼料作物	20	トモロシ(10) アヲアヲ(3) エノアヲ(4) サマ任(3)					穀類と牧草の割合を配慮する
自給作物	5	キツリガ キヌ ユヤ バナ アボカド パッションフルーツ					基本的食糧は自給
緑肥	5	ルビノ ムク					次の胡椒用
林野	5	コム					畜舎の建材用、殺虫剤
家畜	2	豚 牛(肥育) 山羊 鶏 馬 乳牛				20,000	養豚、肥育牛、乳牛、養鶏等の選択 馬は運搬手段用
合計	40					32,000	

家畜用の水源があることが必須。

畜産の場合、中心となる対象家畜を絞り込むこと。

飼料の生産能力に見合った家畜頭数とする。



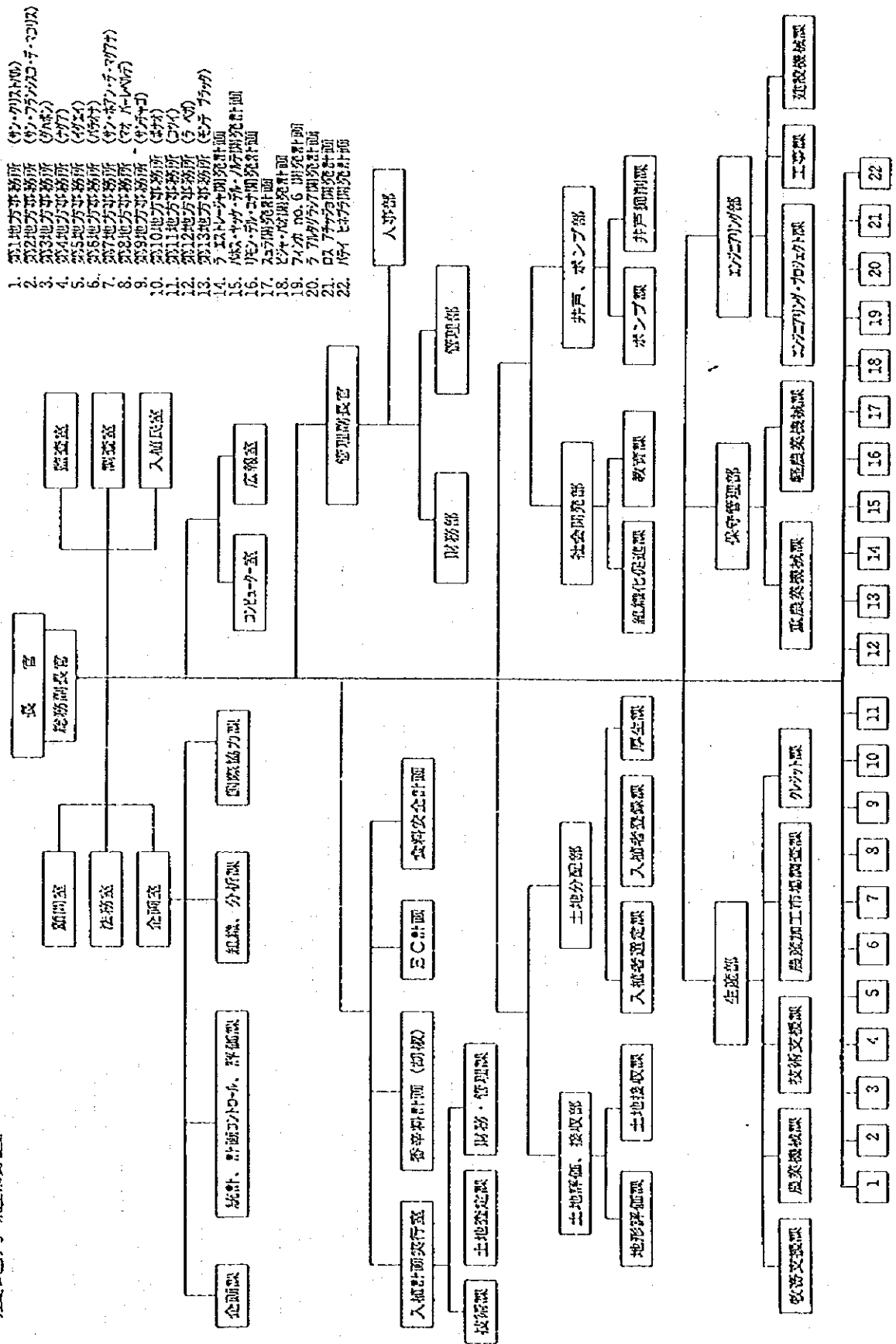
4 プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM)

プロジェクトの要約	指標	指標データ入手手段	外部条件
上位目標 ドミニカ共和国の小農の取入が明取栽培の取入によって改善する。	明取栽培によって、小農の平均取入が50%向上する。	農地庁の年次報告及び小農の経済状況報告	明取の国際価格が著しく低下しない。
プロジェクトの目標 ドミニカ共和国における小農に対して高品質の明取の栽培が普及する。	明取30,000本によって、300戸の小農が乾燥明取を60t/年生産する。	農地庁の年次報告及び小農の経済状況報告	ドミニカ共和国の現状の農業政策が変更されない。明取栽培の普及システムが確立される。明取の販売政策が確立される。
成果 1. ドミニカ共和国の自然環境と、社会経済に適した明取栽培技術体系が開発される。	1-1 明取の生産2kg/1本によって裏打ちされた小農のための明取栽培技術の確立。 1-2 明取栽培の予防と防除技術の確立。 1-3 明取の施肥手法の開発。 1-4 明取の乾留システムの開発。	CENDETECA及び展示農場における技術報告。 明取栽培農家の取入支出の指標及び住民調査計画。 技術者及び普及員の訓練報告書	ドミニカ共和国政府の明取栽培増強体制が確立される。 明取の新しい種が導入しない。
2. 小規模農家レベルの営業計画が作成される。	2 農家調査が実施され、明取栽培農家の取入と支出を構成する指標が確立される。		
3. 展示農場において栽培技術の実行可能性、及びそれが経済的にも成立しうることが実証される。	3 明取栽培の経済的有利性が確認される。		
4. 明取栽培の技術（農務省）と普及員（農務省）が訓練される。	4 明取栽培手法について100名以上の技術者及び普及員が訓練される。		
活動 1-1 明取栽培技術が開発されると共にその他存管作物が導入される。 1-2 土壌及び植物栄養技術が開発される。 1-3 植物保護技術が開発される。 1-4 明取の乾留システムが開発される。 1-5 明取のポストハーベストシステムが開発される。 2 小農レベルの営業計画が策定される。 3 展示農場における明取栽培技術が実証され、展示される。 4 明取栽培技術の訓練が行われる。	投入 日本側の投入： 資費材 RDS 24,000,000.00 長期専門家 5-6人/年 短期専門家 2-3人/年 CA 研修員受入れ 2-3人/年 ドミニカ側の投入： CA 22-28人/年 管理委員 21人/年 労働者 22-31人/年 建物及び土地etc.	プロジェクトのためのドミニカ共和国政府の予算が保証され、農地庁及び農務省によって技術者及び普及員が指名される。	CENDETECAにおいて研究者が建設される。 明取の展示農場が機能を開始する。

[備考] プロジェクトチームが作成したPDM (1996.6.14作成)

5 実施機関組織図

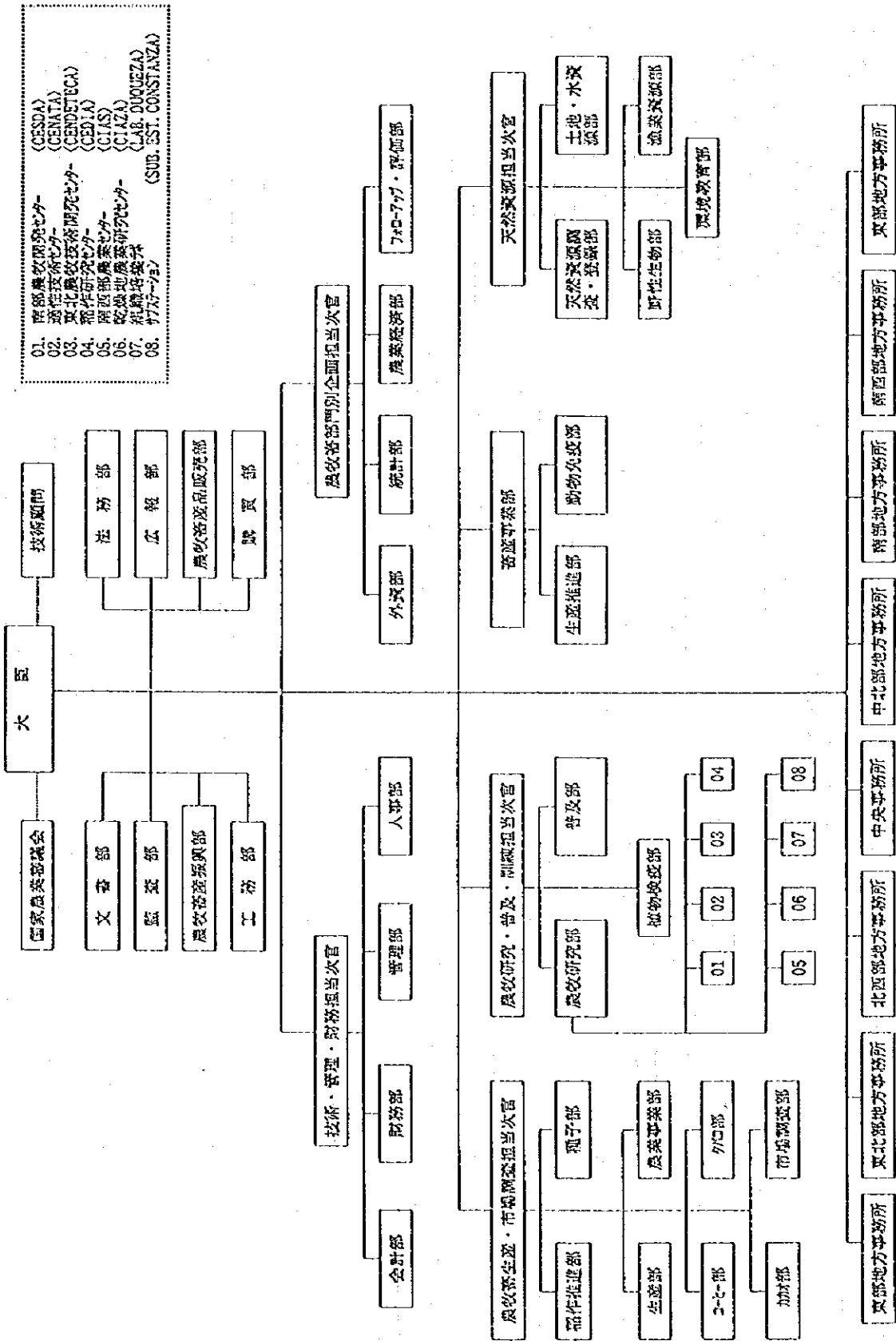
農地庁組織図



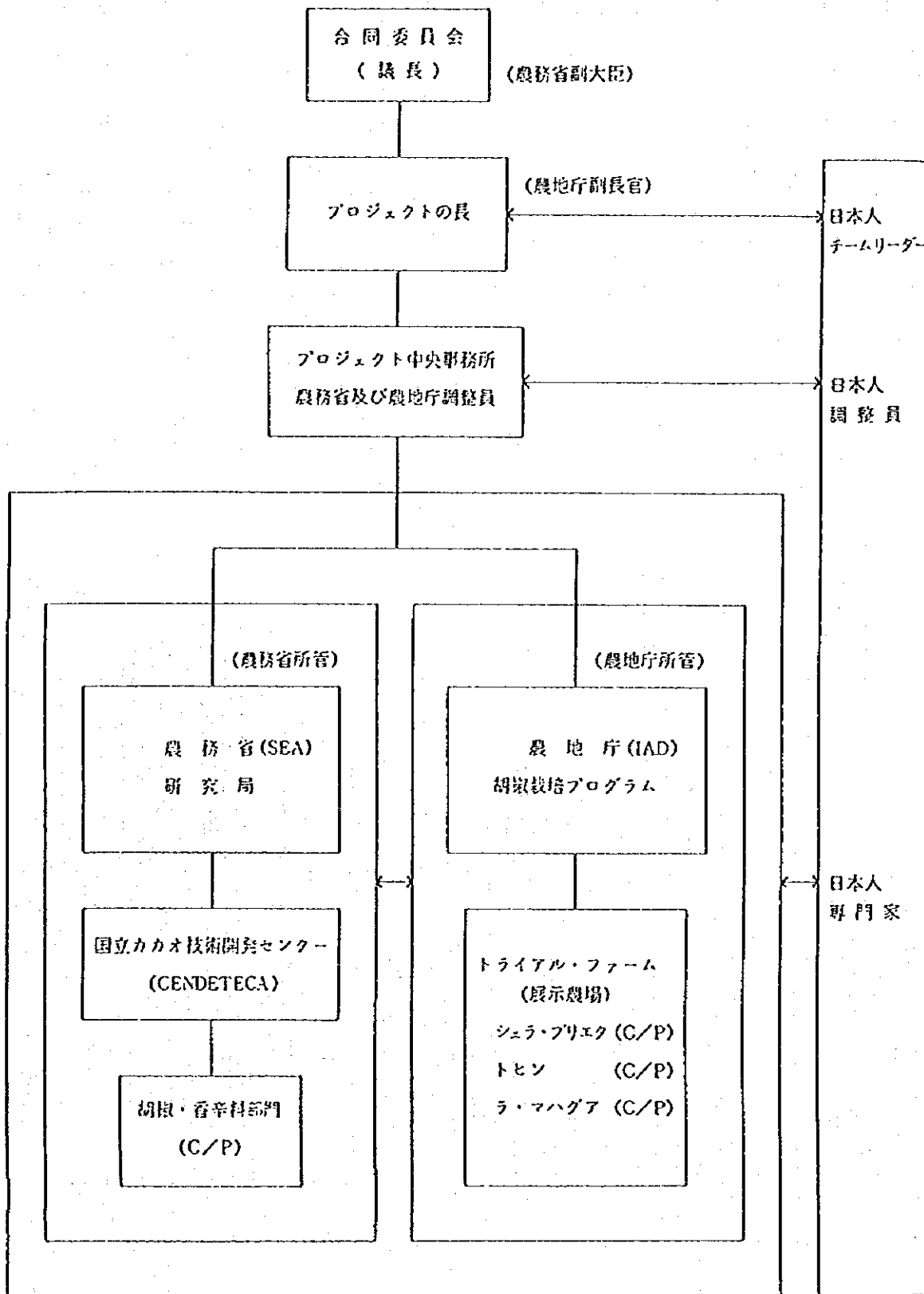
1. 第1地方事務所 (チノカヒトモ)
2. 第2地方事務所 (チノカヒトモ)
3. 第3地方事務所 (チノカヒトモ)
4. 第4地方事務所 (チノカヒトモ)
5. 第5地方事務所 (チノカヒトモ)
6. 第6地方事務所 (チノカヒトモ)
7. 第7地方事務所 (チノカヒトモ)
8. 第8地方事務所 (チノカヒトモ)
9. 第9地方事務所 (チノカヒトモ)
10. 第10地方事務所 (チノカヒトモ)
11. 第11地方事務所 (チノカヒトモ)
12. 第12地方事務所 (チノカヒトモ)
13. 第13地方事務所 (チノカヒトモ)
14. エコノミー開発計画
15. 農産・加工・流通開発計画
16. 農産・加工・流通開発計画
17. エコノミー開発計画
18. エコノミー開発計画
19. エコノミー開発計画
20. エコノミー開発計画
21. エコノミー開発計画
22. エコノミー開発計画

農務省組織表

改訂：06.12.96



プロジェクト組織図



## Misión del Japón hace evaluación

Por EVARISTO RUBENS  
Redactor de Hoy

UNA MISIÓN técnica del Gobierno del Japón se encuentra en el país haciendo una evaluación final del proyecto de desarrollo del cultivo de pimienta que realiza en diferentes zonas de este territorio.

El Instituto Agrario Dominicano (IAD), en algunos de cuyos proyectos se ejecuta el programa de pimienta, informó que la misión la encabeza el gerente del departamento de Desarrollo Agrícola de la JICA, Shinsuke Ota.

Los integrantes de la misión japonesa fueron recibidos en el aeropuerto Las Américas por el director del IAD en funciones, ingeniero Quilvio Cabrera.

El proyecto está en su etapa final y es ejecutado de manera conjunta por los gobiernos dominicano y japonés, el cual beneficia a cientos de parceleros de la Reforma Agraria.

A su llegada, Ota manifestó que a pesar de ser la primera vez que viene al país, tiene un amplio conocimiento de esta nación porque maneja una serie de proyectos que se ejecutan aquí a través de la JICA.

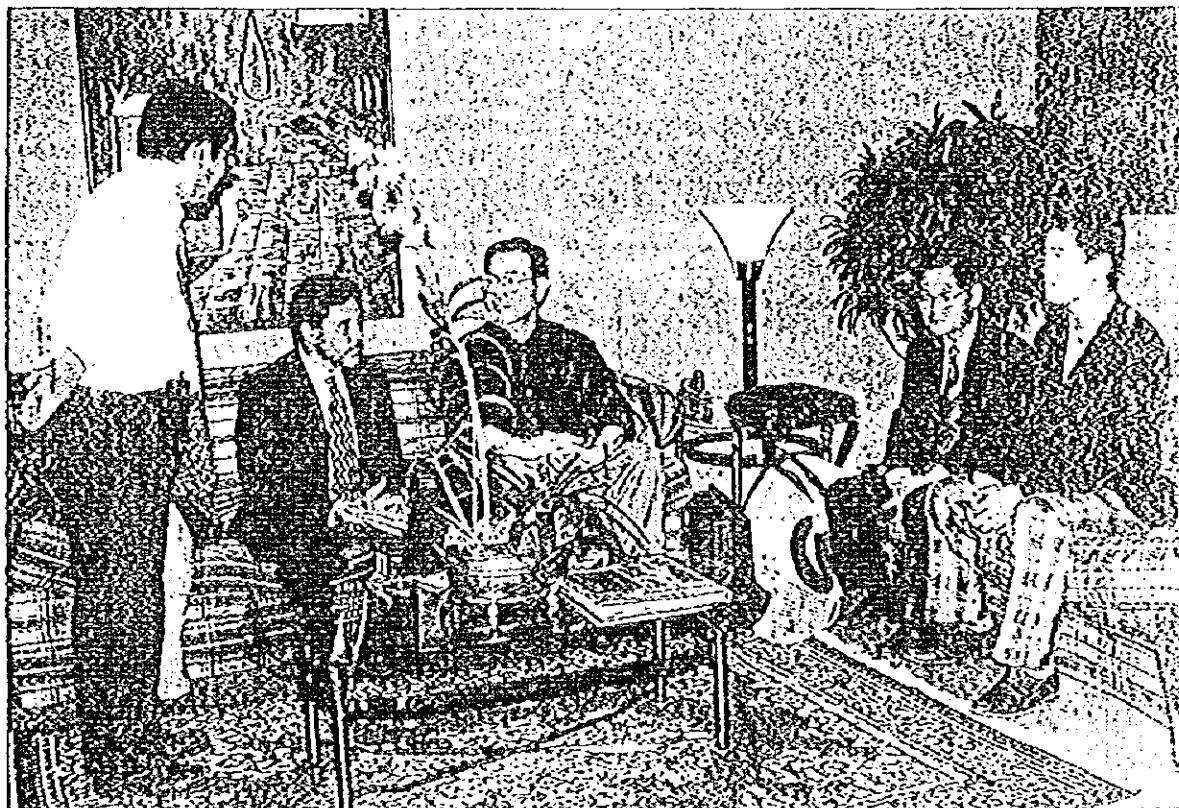
DIJO que el Japón y la República Dominicana tienen una larga amistad que espera cada sea mas amplia.

Prometió que tan pronto termine el proyecto del cultivo de pimienta, serán puestos en marcha otros similares para continuar contribuyendo al desarrollo del país.

La misión japonesa además de Ota, la integran Naoyuki Matsumoto, Kunihisa Morinaga, Tomako Shimada y Takashi Nishimura.

Los técnicos japoneses conjuntamente con los dominicanos harán visitas a las distintas zonas donde se ejecuta el proyecto de pimienta.

El objetivo principal de ese programa es lograr el desarrollo socioeconómico de un núcleo importante de pequeños productores de la Reforma Agraria ubicados en zonas marginadas.



El DIRECTOR en funciones del Instituto Agrario Dominicano, Quilvio Cabrera, conversa con los integrantes de la misión japonesa que visita el país y que encabeza Shinsuke Ota.

「HOY」紙、9ページ（1996年11月19日付）

## 日本からの調査団が評価

現在、日本政府技術調査団が、国内各地で実施されている胡椒栽培開発計画の最終評価のためにドミニカを訪問している。

胡椒関連プロジェクトを実施中の農地庁（IAD）によれば、調査団団長はJICA農業開発部部長の太田信介氏である。

調査団は、ラス・アメリカス空港で、IAD副長官のキイルピオ・カブレラ氏の出迎えを受けた。

プロジェクトは最終段階に入っており、ドミニカ及び日本の両政府が共同で実施しており、小農の農業改善に非常に貢献している。

到着に際して、太田氏は、「ドミニカ国訪問は今回が最初であるが、JICAを通じてドミニカ国で実施している数々のプロジェクトを管理している関係上、当国については幅広い知識を持っている」と述べた。

また、「日本とドミニカ共和国は、増々深まることが期待される昔からの友好関係を持っている」とも述べた。

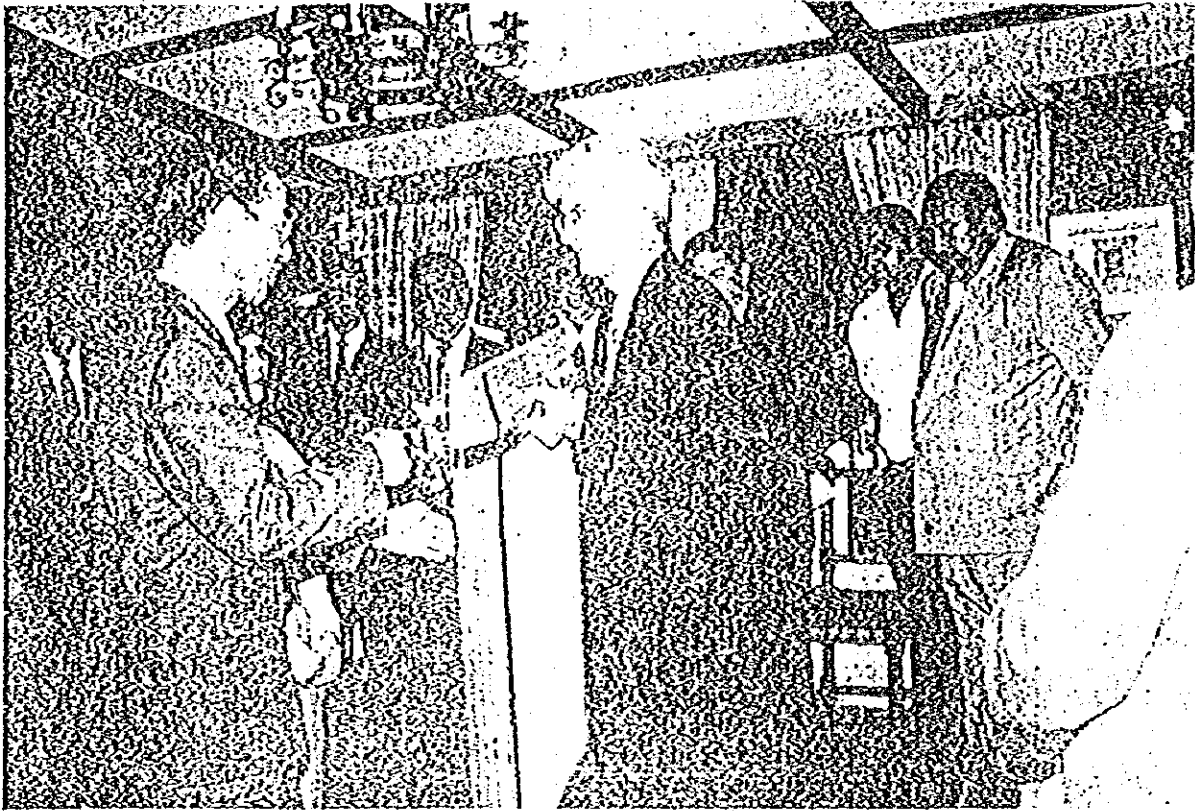
そして、胡椒栽培プロジェクトの終了後、間もなく、当国の開発への寄与を継続するために、同類のプロジェクトが開始されることを約束した。

調査団は太田氏の他、松本直幸氏、森永邦久氏、嶋田知子氏及び西村貴志氏によって構成されている。

日本人技術者及びドミニカ側は、胡椒プロジェクトが実施されている各地を訪問予定である。

当計画の主要目的は、地方の小農グループの社会経済的改善を達成することである。

写真説明：農地庁副長官キイルピオ・カブレラ氏が、ドミニカを訪問中の太田信介氏を団長とする日本調査団と意見交換中



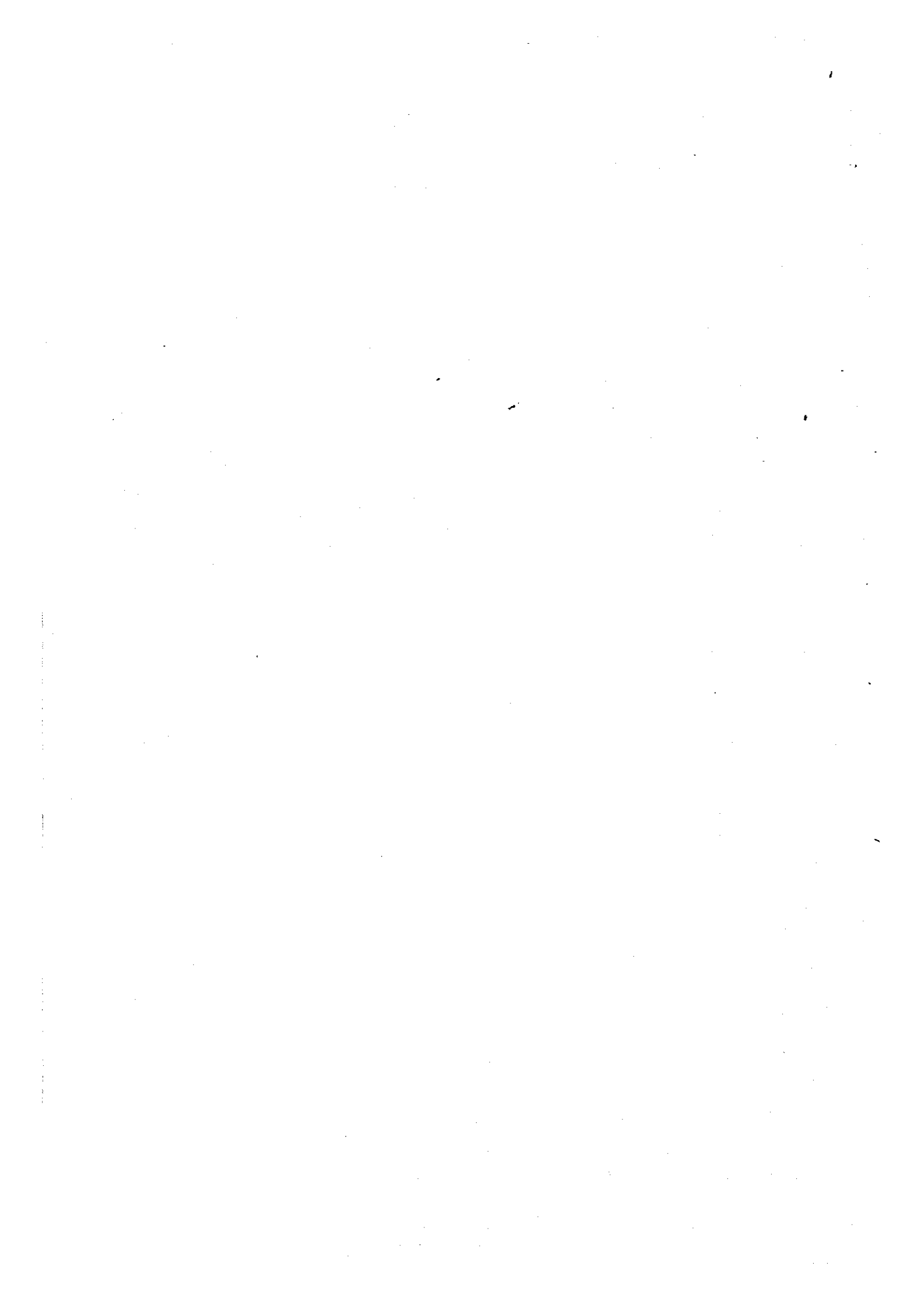
SANTO DOMINGO.- El director del Instituto Agrario Dominicano (IAD), Wilton Guerrero, entrega una placa al señor Shinsuke Ota, jefe de la misión japonesa que visitó el país recientemente. la placa fue enviada a la viuda de uno de los técnicos japoneses que murió en el país en cumplimiento de su trabajo.

【La Información】紙、3ページ（1996年12月5日付）

サントドミンゴ：農地庁(IAD)長官、Wilton Guerrero からド国を訪問中の日本の調査団長太田信介氏に絵画が手渡された。これはド国でなくなった日本人専門家の業績を讃えて、未亡人に送られたものである。







),

JICA